

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「支配と服従」

ご主人様初級講座

奴隷初級講座

S M公開講座 「躰と調教」

S M公開講座 「壁の向こう側」

S M公開講座 「道 標」

S M公開講座 「支配と服従」

S Mの世界には人それぞれに考え方が違うように実に様々な嗜好があります。

本講座ではS Mプレイを中心とした直接的な行為ではなく、「心」を重要な問題として捉える

「支配と服従」(D S : Domination & Submission) について探求していきます。

§ 1 支配と服従の基礎知識

§ 2 支配の心得え

§ 3 服従の心得え

§ 4 奴隷の縛り方

§ 5 いくつかの境界線 奴隷版

§ 6 いくつかの境界線 ご主人様版

§ 7 発想の転換

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「支配と服従」

§ 1 支配と服従の基礎知識

ある程度の経験を積まれた S a d i s t の方にはおわかりだと思いますが、「服従」を望む M 女性の多くは日常生活の自分と内面の M 性のバランスを自分自身でコントロールすることができません。

自分では気が付かないうちに自分自身を苛めているのです。

無意識のうちに自分を追い込んだり、自分を傷つけるような行動を取ったりした経験が必ずあるはずです。

M 女性には、このような「自己破壊願望」がひそんでいることを理解してください。

よせばいいのに無理な仕事を引き受けてしまったり、他人からは吃驚するような大胆な行動や決断をするのもこの願望の現れなのです。

こういう M 女性は、いつも暇そうにボーッと時を過ごしていることがなく、常に忙しそうに動き回っています。

周りの人からは行動的で積極的な責任感の溢れる女性に見えるんですね。

パニックにならない程度で済んでいるうちはまだいいのですが、心のバランスが大きく崩れてくると自分自身に刃を向けてしまうことの恐ろしさを本能的にはわかっていますが、自分は一人で生きていける強い人間になりたいと思っているのでなかなかそれを納得することができません。

M 女性が S M の世界を知って惹かれていくのは、不安定な自分をコントロールしてもらいたいという本能なんだということが理解していただけるでしょうか。

肉体的に苛められることで快感を得るためだけの S M ではなく、ご主人様の奴隷として飼われたいと願うのは絶対的な「支配」によって自分を守ってもらいたいという本能的な欲求なのです。

さて、次はS男性の番ですね。

安心してください。「支配と服従」の感覚を最初から持つS男性なんてまずほとんどいませんから。

経験を重ねてS Mを知りM女性というものを知り、ただプレイするだけではなくM女性を自分の理想の奴隷に育てたいと願う気持ちが「支配と服従」の感覚を生み出していきます。

「支配」を望むS男性は奴隷を征服するのではなく所有することに自分の心の安定を求めます。

もっと極端に言えば自分の身体の一部として取り込みたいほどの所有欲ということです。

当然「支配」は調教の時だけでなく日常生活にも求め奴隷が常に自分の所有物であることを意識するように育てていきます。

それを実現するためにはM女性の心を把握してきちんとコントロールしてあげなければなりません。

そのためには奴隷の中のMとしての部分だけでなく、その存在すべてに愛情を注ぎ導いてあげることが必要ですね。

調教を通してご主人様の存在そのものがどれほど必要なのかということを奴隷に教えたいと思うS男性は、もう「支配と服従」の世界の住人です。

S男性の中にはM女性から次のような質問をされたことのある人がいると思います。

「奴隷としての調教が終わってしまったら私は捨てられてしまうんですか・・・」

M女性の心のバランスを上手にコントロールしてもらうために「支配」を受け入れ、「服従」によって自分自身のすべてを委ねることができるようになるための調教ですから、一通りのプレイがこなせるようになるための調教とはまるで違うということはもうおわかりいた

だけだと思いますが、M女性が立派な奴隷として成長してからが真の「支配と服従」が始まるのです。

淫乱な奴隷に仕立てあげる課程が楽しいご主人様なら調教の終わった奴隷を捨てることもあるでしょうが、「支配と服従」を目指すご主人様なら奴隷を手放すということは自分の心臓を抉り出すのと同じようなものだとお考えください。

レディスコミックやSM小説のように羞恥と屈辱にまみれた快樂だけがお望みであれば、「支配と服従」の世界とは無縁だと思っていただいて結構です。

ご自分が持って生まれたSやMの心を素直に認めていくのはとても勇気のいることですが、この講座が本当の自分を見つめるためのきっかけになることを願い、「支配と服従」の世界をご理解いただきたいと思います。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「支配と服従」

§ 2 支配の心得え

< 奴隷の飼い方 >

S a d i s t が自分の奴隷が欲しいと思うのは至極当然の欲求ですね。
では、自分はずなぜ奴隷が欲しいのか考えたことはありますか。

自由を剥奪されたMに屈辱を与えるのはSだけが得られる快感ですね。
服従させられる時の眼や表情は永遠の美の極致だと思います。

でも、それだけならS Mクラブでもいいじゃないですか。
いつでも好きなときに呼び出して虐められるしお金がかからないから。

自分の好き勝手にできて命令すれば何でも言うことを聞く都合のいい女が欲しいと思って
いるだけなら、ご自分をS a d i s t と思うのをやめましょう。

それでも、人格を剥奪した感情を持たない性交人形をお望みならそれはそれでいいでしょ
う。
そういうS Mもあるんですから。

しかし、「支配と服従」の世界を目指すのであればもう少し考えてみてください。
奴隷を飼うということは奴隷のすべてを支配するということです。
ということは奴隷が生きていくことのすべてを管理する責任があるのです。
奴隷にすべてを捧げて服従することを誓わせるというのはそういうことだと思ってくださ
い。
「支配と服従」の世界では、奴隷を飼うということは奴隷を管理するということなのがお
わかりいただけだと思います。

では、どのように奴隷を管理するのか、といたいところですが、そんなことをお教えす
るつもりはありません。これから奴隷を飼いたいと思っている方が、ご主人様として自分
で考え、自分のスタイルで飼うために、参考にしてもらいたいことをあげてみます。

人それぞれ考え方が違うのですから、自分はどんなご主人様になりたいのか、よく考えて
みてください。

< M女性と奴隷の違い >

自分の目の前にいる女性がMだとわかっているのであれば、すぐにでも奴隷にできると思っていないですか。

どのような出会いであるにせよ、自分の奴隷になる誓いをたてるまではM女性はただ単に相手がMだということを知っている女性に過ぎないのです。

自分の考える奴隷として相応しいかどうかよく観察しなければなりません。

あくまでも選ぶ権利はSにあるわけですが、M女性ならなんでもいいという態度では困りますね。

奴隷にすると決めたときに、ご主人様に相応しい奴隷になれるM女として選んでもらえたんだということを自覚させるにはそれなりの態度でM女性に接しなければならないのです。

私のご主人様はM女性なら誰にでも手を出すような方ではないという安心感、また、そういうご主人様に自分は選んでいただいたのだという自負心が、強い信頼につながることをお忘れなく。

初めて会うのに、頭の中は調教のことでいっぱい、ついでに鞆の中も道具でいっぱいでは、いつまでたっても「支配と服従」は遠い世界なのです。

< 奴隷は貞淑に >

M女性はどうしてもないほど淫乱な生き物、また、そのように育てるのが調教だと思っていないですか。

間違いだとはいいませんが、あくまでもご主人様に対してだけであることをお忘れなく。

指一本触れなくてもご主人様のそばにただで感じてしまうほどの奴隷に育て上げたいのなら、淫乱にではなく、貞淑に躡けなければなりません。

なんだか矛盾してますか？

つまり、ご主人様の前にいるとき以外は貞淑なレディでなければならない、またそういう女性に育てるのが、ご主人様の役目であるということです。

普段の生活とMとしての自分を大きな落差で切り換えさせるのは、ご主人様の大切な役目なのですよ。

ぜひ、どこに出しても恥ずかしくない素敵なレディに育ててあげてください。

< 奴隷はご主人様だけのもの >

いまさら何を言い出すのか、ですね。

奴隷は身も心も捧げて服従するのですから。

でも、ご主人様はその服従に応えられる人間でなければならないとは思いませんか。

ただ虐めることが好きなだけの中身のない薄っぺらな人間では、奴隷が心から尊敬し信頼して、愛情を捧げることなどできないのですよ。

奴隷の服従に足るご主人様として常に自分を磨くことをお忘れなく。

奴隷が飼ってもらえていることを誇りに思えるようなご主人様になっていただきたいのです。

個人的な意見としては、今まで何人の奴隷を飼ったことがあるとか、どんなプレイが得意だとか、自慢げに披露するような軽薄なことはしないでいただきたいのです。

経験が豊富であることよりも奴隷にとってはご主人様が唯一無二の存在であることの方が大切なのですから。

< 支配の心得え >

ここまでをお読みになってなんだかやる気の失せてしまった方は別として、多少なりとも共感を抱かれた方は「支配」する側の人間としての資格があると思います。

奴隷を飼うということは人間を育てるということです。

§ 1でお話ししたとおり、M女性は自分を持て余すほど不安定でデリケートな生き物であるからこそ主人様の「支配」を望んでいるのです。

けして、おとなしいからなんでも命令に従ってしまうわけではありません。

泣く、怒る、すねる、わがまま、どれをとってもノーマルな女性以上です。

どのように育てどのように飼っていくかはご主人様යි。

しっかりとした考えを持ち、S Mごっこになってしまわないように。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「支配と服従」

§ 3 服従の心得え

<なぜご主人様が必要か>

実際には、自分がMだと思っている女性って以外と多いんですよ。
縛られてみたいとか虐められたいとか、いろいろですけどね。

でも、自分が本当にMなのか考えたことがありますか。

S Mに興味を持ち、ご主人様とか奴隷という言葉を見つけて、そういう世界があるんだな
と思い、なんとなく憧れを持った人、合格です。

では、なぜ憧れるんでしょうか。

自分で答えを見つけるのは至難の業でしょうね。
それを教えてくれるのはご主人様の役目ですから。

しかし、それでは講義が終わってしまいますからもう少し進めてみましょう。

ご主人様と奴隷の関係、つまり主従関係になにか満たされるものを求めているのではない
ですか。

虐められたい辱められたいという以上に服従したいという気持ちがあるはずですよ。

では、なぜ服従したいのでしょうか。

時として不安定になる自分が嫌いで、そんな自分を他人に見せたくない。
でも自分ではどうしようもないから、そんな自分を誰かに委ねてしまいたい。
自然に甘えたり頼ったりできる人がいればいいんだけど、それが素直にできるくらいなら
服従したいなんて思わないんですよ。

服従することしか許されない関係なら、素直になれるかもしれないと心のどこかで思っ
ているんです。

自分が本当に自分らしく生きるには服従すること、つまりご主人様が必要なんです。

< 支配されることと服従することの違い >

支配されるということは、強制的に従わされることです。

服従するということは、自ら進んで奉仕することです。

言葉だけの問題ではなく心の持ち方としてよく考えてほしいことです。

どんな調教でも、命令だから従わなければいけないと思うと、どこかにためらいが生まれます。

ただ命令を待っているだけの奴隷と、ご主人様が何を求めているのかを一生懸命に考えている奴隷では大きな違いがあることがわかるでしょう。

何かしてもらえるのを求めるのではなく、何をしてあげることができるのかを考えてください。

どんな些細なことであっても、それをご主人様にさせてもらえることが嬉しいと感じたときに初めて服従するということが理解できるのです。

< ご主人様はただ一人 >

ご主人様というのは後にも先にもただ一人しかいないということを覚えておいてください。

過去にご主人様と呼んだことがあったとしても、けして「前のご主人様」という表現は避けていただきたいのです。

いろいろな経験があったとしても、それは本当のご主人様に巡り会うための準備だったのであり、これからさき他の方をご主人様とお呼びすることはありえない。

「ご主人様」と呼ぶのはそのくらいの覚悟でいてください。

けして軽々しく口にするべき言葉ではないのですから。

奴隷として「ご主人様」と呼ぶことに、Mの誇りを持ってもらいたいです。

S男性には、ただでさえ高いM女性のプライドに火をつけるなどお叱りを受けそうですが、ご主人様と呼ぶことがいかに重要なことなのかを理解していただきたいので、敢えていわせていただきます。

<変わっていく自分>

ご主人様の調教を受けて奴隷はどのように変わっていくのでしょうか。

そんなことはご主人様が決めることで、奴隷の考えることじゃないのでしょうか。

ご主人様のお好みの服装や髪型やメイクにいたるまで命令されるのは当たり前のことです。

ただそれだけでは「支配と服従」には不十分です。

普段の生活においても、ご主人様の奴隷として恥ずかしくない人間として行動しなければなりません。

言葉遣い、立ち居振る舞い、物の考え方、素敵な女性として認められることは自分自身のためではなくすべてご主人様のため。

ご主人様に相応しい女性として自分を磨いてください。

今までなら爆発していたようなことでも、こんなことで感情的になったのではご主人様の奴隷として相応しくないと考えるようになれば、ご主人様の大切さが実感できるでしょう。

< 服従の心得え >

ここまでをお読みになって、自分が普通の人より淫乱で普通のSEXでは物足りないからなんていう人は別にして、多少なりとも共感を抱かれた方は「服従」する側の人間としての資格があると思います。

「支配と服従」について考え、どんなご主人様が自分に必要なのかを考えてください。

S Mプレイの嗜好も大切なことではありますが、それ以上に大切なこともあることをお忘れなく。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「支配と服従」

§ 4 奴隷の縛り方

さて、あなたはどんな縛り方が好きですか。

S M雑誌を見ながら、今度はこんな風に縛ろうかななんて考えるのも楽しいですね。

麻縄にしましょうか、それとも木綿のロープにしましょうか。

でも、あなたの大切な奴隷を心の縄で縛ってみたいとは思いませんか。

けして解けないようにしっかりと縛ってあげてください。

雑誌を見て縛り方を勉強する必要などありません。

縛り方はあなたの自由です。

そして、自分の縛り方に自信を持ってください。

あなたの掛ける心の縄は、奴隷に屈辱を与えるためのものではありません。

奴隷の不安を取り除き、心を解放してあげるためのものなのです。

そのためには、目に見えない心の縄で縛ってあることを奴隷によく教え込まなければなりません。

心の縄で縛られているかぎり、常にご主人様が見守っているのです。

結び目が緩まないように、ご主人様の所有物として恥ずかしくない生き方をしなければなりません。

けして痕は残らないし痺れることもないけれど、一度縛ったら二度と解くことはないのだということも教えてあげてください。

突然ですがこれから問題を出します。

M女性が奴隷として飼われるようになると、とても安心できるようになるのも事実ですが、奴隷であるが故の不安も出てきます。

さあいったいどんな時にどんな不安を感じると思いますか。

あなたをご主人様と呼ばれるようになれば必ず直面する問題ですから真剣に考えてみてください。

最低でも五つ以上をあげ、それに対してご主人様としてどう対処するかも考えてください。

「支配と服従」を目指すのであれば、奴隷の分際で不安を抱くなんてとんでもない、なんていうのは解答にはなりませんよ。

奴隷が心に抱いている不安をご主人様に打ち明けるのはとても勇気のいることですし、ギリギリまで追い込まれたときだと思っていた方がいいのです。

むしろ、口にできないことの方がはるかに多いはずです。

事前にそれを感じ取り、いい方向に導いてあげるのはご主人様の大切な役目なのです。

奴隷が何を感じ何を思っているのかしっかりと把握できるご主人様になってください。

奴隷を縛った心の縄のもう一端はご主人様の心に繋がっていることをお忘れなく。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「支配と服従」

§ 5 いくつかの境界線 奴隷版

今回は、主従関係を結んでからしばらくすると経験するであろう心の境界線について考えていただきたいと思います。

まず、奴隷の側について考えてみましょう。

ご主人様に服従する奴隷にとっては境界線などというものがあってはならないはずなのですが、奴隷であるが故に存在する境界線というものがあります。

< その1 本当の自分を出す >

心から服従する奴隷になるためにはご主人様の前では本当の自分を出さなければなりませんし、またそのようにご主人様から命令されるはずです。

さて、困りましたね。

本当の自分を出すってどうすればいいのでしょうか。

わがままで寂しがりやで泣き虫で、そんな自分をさらけだしてしまったらきっとご主人様を困らせてしまう、いえ、その前に嫌われてしまう。

そんな風に思ったあなた、ちょっと意味を取り違えているようです。

自分のすべてを受け入れてくれると信じているご主人様に、素直にありのままの自分を受け入れてもらうことが、「本当の自分を出す」ということなのです。

「本当の自分」の悪いところは叱ってくれ、良いところは誉めてくれるでしょう。そしてより良い自分に作り変えてもらうために調教を受けるのですから。

ところが、この境界線を乗り越えるのはけっこうしんどいものなんですね。

肉体的な調教であれば羞恥や苦痛を抑えて従順になれても、ご主人様の前で素直な気持ちになれるかどうかは意識の問題ですから。

それを解決するために、ごく初歩的な段階としての目標をたててみましょう。

まず、他愛もない日常の出来事をご主人様に報告する習慣をつけてください。

そのうちに、ご主人様には報告しにくいことも出てくるはずです。

心配を掛けてしまうとか、理由は様々でしょうが。

でもそんなとき、「だからこそご主人様にご報告しなくちゃ」と素直に思えれば第一関門は無事に突破できたわけです。

当然の話ではありますが、ご主人様に対して隠し事や嘘なんてあってはならないことですが、何の躊躇もなく素直に感じるかどうかポイントですね。

このようにして少しずつ自分が変わっていく、いえ、変えていただっていくことに大きな喜びを感じられることと思います。

けして自分の心を押し殺すことが服従だなんていう思い違いはしないでください。

<その2 何もしてあげられない>

あなたのご主人様が「支配と服従」を理解されている方ならば、あなたが生きていく上で大きな影響を受けるはずです。

他の誰からも得ることのできない色々なものをたくさんいただけることだと思います。

もちろんプレゼントのことじゃありませんよ。

そのうれしさを噛み締めていると、ひょっこり顔を出すのが私はご主人様に何もして差し上げられないという気持ちです。

これは、ご主人様の存在が大きくなればなるほど気になってきます。

でも何かしてあげたいと思えば思うほど何をすればいいのかわからなくなるんじゃないですか？

さてと、この境界線の突破はけっこう簡単です。

なぜかといえば、答が一つしかないからです。

それでは解決方法を伝授しましょう。

あなたは何もする必要はありません。

そんなの答にならないじゃない！と思われませんか？

ご主人様はそんなことを望んでいないのですから、何もする必要がないというのが正解なんです。

もし、それではあなたの気持ちが収まらないのなら、あなたが授けてもらったご主人様の素晴らしさの数々にあなたの心と身体のすべてで喜びを表現してください。

ご主人様と出会えたこと、飼っていただいていること、ご主人様なしでは生きていく意味がないこと、表現方法はお任せしますが、きっとご主人様には喜んでいただけるとおもいます。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「支配と服従」

§6 いくつかの境界線 ご主人様版

さて次はご主人様の側について考えてみましょう。

本来、奴隷との間は一線を画すものであって、境界線などあって当たり前。

もちろんそうだと思います。

しかし、「支配と服従」を目指す若葉マークのご主人様には大いに悩む境界線があるのです。

そして、時としてこの境界線が乗り越えられずに主従関係に破綻のおきることさえあるのです。

<その1 加虐と愛情のバランス>

これまでの講義を読まれた方なら「支配」がただ単に屈辱的な服従を強いることではないこと、さらに調教が単なる精神的肉体的な加虐に留まらず、もっと広義の意味を含むことも理解されたと思います。

「支配」の根底にあるのが愛情であり、調教ですら愛情と切り離して考えるべきではないのです。

しかし、いざ実際に主従関係を結び調教を始めていくと、調教中の厳しさと調教を終えた後の優しさに落差をつけようとする意識が出てきます。

奴隷に愛情を注ぐのは甘えさせてあげる時なのだから、それ以外の時は抑えなければならぬと考えてしまうかもしれません。

ほら、自分で勝手に境界線を引いているんです。

そして、加虐と愛情のバランスを取ろうとするあまり、奴隷に甘く、さらに自分にも甘くなってしまうという過ちを犯してしまいがちです。

ところがどっこい、「服従」をわきまえた奴隷はいくら甘えられる時であってもご主人様にたいする基本的な態度は何の変化もないのです。

奴隷にとってはご主人様は常に大きな存在であって欲しいのですから履き違えたバランスは無用の長物なのです。

もし奴隷がそれに気がつかないのであれば、きちんと躰をするのはご主人様の役目ですね。

<その2 大いなるマンネリ>

初めて奴隷を手にしたご主人様なら、いままで思い描いていた調教を一気に爆発させたいと思うのは無理もないことでしょう。

道具を揃えて、数々の責めを考えることが間違いだなどとは口が裂けてもいえませんが、そればかりでは長くは続きませんよ。

どんな風に奴隷を育てていくのかは調教しながら考えるんだ、なんて考えているとその内なにをしていいかわからなくなってしまいます。

調教のマンネリ化という大きな境界線が待っているのです。

さて、この境界線をどうやって克服しましょうか。

その答えは、最初の心掛け次第とおきましょう。

まず、M女性なら誰でもいいから調教したいなんていう人にはできない相談ですが、奴隷をどのように育てるか、その期待に応えられるM女性なのかを見極めるまでは主従関係を結ぶべきではないのです。

たとえ相手がどんなに望もうと、しっかりと主従関係を結ぶまではプレイするつもりはないと言い渡すくらいの心の余裕が欲しいですね。

そして、主従関係を結んでからもゆっくりと「支配」を作り上げていくことです。

たとえ道具を使わなくても、いえ、たとえ触れることすらしなくても「支配」は成り立つのです。

それが出来上がってからが本当の「支配と服従」なのですから。

最初から大いなるマンネリを目指してください。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「支配と服従」

§ 7 発想の転換

「SはサービスのS、MはマンゾクのM」という言葉をどこかでお聞きになったことがありますか？

すべての行為はMを満足させるための手段であり、それを求め続けずにはいられなくすることでMを支配する。

SはMに肉体的な快楽を与え征服することが役目でありそれが無上の悦びであり、Mはそれを従順に受け入れて陶醉の世界に浸ることを享受する。

確かにその通りだ、と思う方は多いでしょう。

ノーマルな人たちから見たS Mの世界ではこのようなことすら想像の外にあるでしょうから、多少なりともS Mの世界に身を委ねた方でなければ納得することすらできないと思います。

もちろん立派にS Mしてるわけですから、全面的に否定するわけではありません。

しかし、これでは行為を中心にしたS Mゴッコでしかないことに気付いていただきたいのです。

Sの側でいえば、苦痛や恥辱を含めた行為を受け入れさせ、そこから快楽を引き出すことは当然の義務であり、また権利でもあるわけです。

そしてさらにその上に従順に従わせること、さらにまたその上に従順に従うことに悦びを感じさせることが重要なポイントになるわけです。

マゾヒストとしてのオルガスムを引き出すことだけに熱中しているようでは、真の「支配」は遙かに遠い世界の夢物語なのです。

Mの側でいえば、Mとしての自分を肉体的に解放してもらうことはSを求める大きな理由でありMであることの要因でもあるわけです。

ですが、それだけに留まらずご主人様とお呼びする存在は自分の飼い主であることをいかに自覚していくか、そしてどんな立場に立たされようと自分を守ってくださる絶対的な保護者であることを心に焼き付け、さらに何があっても心の揺らがぬように自分を律していくかが重要なポイントになるわけです。

身も心も捧げると誓ったからといって、捧げちゃったんだから何も考えずにただご主人様に従うだけで後はすべてお任せコースでは、真の「服従」は手の届かない宇宙の彼方にあるだけなのです。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、このへんで本題に入りましょう。

S男性に真剣に考えていただきたいのは、自分の奴隷が持つ特質（性格的な長所と短所）をいかに把握するかということと、どのように導いていくかということです。

誰にでも当てはまるというわけではありませんが代表的な例をあげて説明いたします。

M女性の持つ特質として、しっかりとした自分の考えや意見を持つことができ、それを的確に表現することができる長所を持つ方が多いようです。

ただし、その発想が意外に短絡的で、行動もかなり衝動的であるというオマケが付くわけですが。

ノーマルな人を見ると明るい自己中心タイプ、つまりわがままなんです。

じゃあ、それをどんな風にしてやればいいんでしょうか。
わがままと治させる、いえいえ、そうじゃないんです。

短絡的な発想や衝動的な行動？ それも違います。

その根元にあるのは際限なく落ち込んで、自分を追い込んでいく考え方にあるのです。

暗～い性格だとドツボにはまったまま出てきませんが、けっこう明るくて楽観的だったりするもんだから最後まで落ち込む前にポンと飛んじゃうんです。

それが結果的に短絡的だったり衝動的だったりすることにつながるわけです。

要は飛んでしまうような追い込み方を自分自身でしないように変えてあげることができればいいのです。

ごく基本的なパターンとしてこんな例はいかがでしょうか

「あ～、どうしてこんなに忙しいんだろう。」

「えっ、これだけで手一杯なのにさらに他のこともしなくちゃいけないなんて・・・」

「どうしてみんな帰っちゃうの～、誰か手伝ってくれてもいいじゃない・・・」

こういうとき、適当に手を抜いたり、頑張ったんですけど終わりませんでしたといって謝ればいいのか、なんていう発想はM女性にはできない芸当です。

こうなればなにがなんでもやり抜いてみせるとするか、できないものはできないといって思い切り喰ってかかるかでしょう。

どちらにしてもフツフツと不満が蓄積されていくわけです。

こんな時どうすればいいのでしょうか。

ご自分で考えることが大切なのですが、とりあえずこんな模範解答はいかがでしょう。

こんな時は、まずご主人様の顔を思い浮かべるように寝ます。

つぎに、よく考えてどうしても無理ならばきちんと断り、できる範囲ならばやりとげることにする。

判断基準は無理なことを引き受けてしまっただけで他人に迷惑をかけること。

言い換えれば、ご主人様の持ち物として恥ずかしくない態度と行動をしなければならぬということです。

奴隷が他人に後ろ指をさされるということはご主人様がそうされるのと同じことなのだというのをしっかりと教えてあげることが大切なことなのです。

ご主人様の物であるという自覚が日常生活においても切り離すことのできないものであることをしっかりと把握させなければなりません。

こうして自己中心的な発想から、ご主人様を意識した奴隷としての発想へと上手に転換してあげてください。

Sは縛って叩いて突っ込んでのSだ！タイプのご主人様に「24時間奴隷の自覚を持て」といわれても、そんなのは無理よと心の中でベロを出されるのはしかたのないことなのです。

そして「支配と服従」の完成は、終着駅ではなく出発点だということを感じていただければ幸いです。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

ご主人様初級講座

本講座はSM公開講座を受講し、さらに「支配」を実践していきたいS男性のために開講いたします。

もしあなたがM女性を適当に弄ぶために都合のいい女として見ていたり、自分の加虐的な欲望を満足させるだけのSMがお望みなら、ここから先は読むだけ時間の無駄です。

どうか大切な時間を無駄になさいますように。

§ 1 奴隷の見分け方

§ 2 最初の一歩のその前に

§ 3 初めての気持ち

§ 4 優しさの苦しみ

§ 5 永遠の愛奴

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

ご主人様初級講座

§ 1 奴隷の見分け方

もしあなたの目の前に100人のM女性がいたとしたら、そのうちの一人ぐらいは自分の奴隷にすることができるだろうなんて甘いことを考えていませんか？

奴隷にするんだからM女性に選ぶ権利などなく、あくまでも選ぶ権利は自分の方にある。

もちろん正論ですが、実際はそうはいきませんよね。

お互いがSでありMであることを知った上であなたを受け入れてもらえなければ主従関係が成立しないのが現実です。

そこで、あなたを受け入れてくれるM女性、つまりあなたの奴隷になるM女性を見分ける方法について考えてみましょう。

ここで勘違いして欲しくないのは、自分はこういうプレイが好きだからそれを望んでいるM女性を探すというのではなく、あなた流の「支配」を受け入れることができるM女性を見分けることを目的としていることです。

プレイの嗜好を否定するわけではありませんが、それはそれとして「支配」の実践という立場で考えてみます。

さて、結論から先にいうと、あなたの奴隷を見分けるということは、あなたをM女性に受け入れさせる方法であることなのです。

もう一言いえば、無理矢理に受け入れざるを得ないようにするのではなく、素直に受け入れることができるようにするにはどうしたらいいのかということです。

たとえ未完成であっても「支配」をめざしたいという意志があれば、それは自ずと態度に現れてきます。

そして、たとえ「服従」に目覚めていなくてもその資質があるM女性なら、それを本能的に感じ取ることができるはずです。

「S Mというのは信頼関係が大切なんだよね。もちろん信頼関係は愛情が伴わなければ生まれないのさ。」

なんて、どっかで聞いた言葉をそのまま言ってみたところで、所詮付け焼き刃ではすぐに刃こぼれしてしまいますよ。

S M公開講座をよ～く復習して、あなた流の「支配」を見つけてください。

S として、主従関係というものをどのように考えているか、奴隷をどのように育てていきたいのか、あなたなりのS M観をしっかりと持っていれば、ただでさえ少ないチャンスを無駄にしないで済むのではないのでしょうか。

あなたの奴隷になるべきM女性を見分けるということは、あなたという人物を自分が仕えるべきご主人様として見分けさせることなのです。

M女性との出会いのチャンスを作る方法にお悩みの方はとても多いと思います。

S M系の伝言やツーショット、パソコン通信やインターネット、パーティやサロン、マニア倶楽部などの専門誌、他にもいろいろとあるとは思いますが、それなりにチャンスはあるはずです。

たとえばインターネットのあちこちにある掲示板や伝言板に片っ端から載せても全然返事がこないと嘆いている人もいるでしょうが、そんなあなたにひとつだけアドバイスさせてください。

もちろんそういうところをご覧になる女性がすべてMであるとは限りませんが間違いなくS男性との出会いを求めている方はいらっしゃいます。

そんなM女性からメールを貰うためには、前述のしっかりしたS M観はもちろん必要ですが、あなたをアピールするだけでなくぜひM女性の立場に立って考えてあげて欲しいのです。

どんなに支配を望んでいてもM女性が踏み出すためには「怖さ」があります。

これについては奴隷実践講座で詳しく述べることにしますが、経験のあるなしに関わらずこの「怖さ」が消え去ることはありません。

あなたの「支配」にたいする姿勢とともに、M女性の立場に立って「怖さ」を和らげてあげる気持ちを表せば、たとえどんな場所であってもいつかは必ずチャンスがくるはずです。

その時がくる前にぜひあなた自身を磨いてください。

奴隷を見分ける上で、もう一つ注意すべき点があります。

M女性の中には、ある特定のプレイは好きだけどそれ以外はいやだとか、このプレイだけはできないと平気でおっしゃる方がいます。

それもほとんど経験がないに等しいのにです。

このように思いきり勘違いしているにも関わらず、私はMですとおっしゃるような女性は「支配」をめざすあなたには無縁の存在だと思ってください。

いままでの講義を受けて、こういう気持ちも聞き入れてあげる必要があるのではと思われるかもしれませんが、それは違うのです。

たとえ過去の経験の上での言葉だとしても、何をするかを決めるのはご主人様であるあなたです。

たとえ同じことをするにしても、あなた流の方法であなた自身の手で行えば違った結果が得られるかもしれません。

それでもどうしても受け入れられないようであれば調教のメニューから外すまでのことなのです。

そういう経験をしていくことでお互いの関係が深まっていくのだと思ってください。

また逆に、私はこういうプレイが好きなのでそういうことに興味のある人を探しています、
というのは「支配」をめざすあなたにはそぐわない態度でしょう。

もちろんあなたにも好きなプレイがあるでしょうし、知り合ったM女性から、どんなプレイがお好きですか？ というような質問をされるかもしれません。

でも、それはこれからだんだんと主従関係を深めていく過程で、M女性の気持ちや反応を見定めながらあなた自身が決めていくことなのです。

けして、いままでの経験を自慢するかのごとく、こんなプレイやあんなプレイが好きだなんて軽薄な態度は慎んでいただきたいものです。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

ご主人様初級講座

§ 2 最初の一步のその前に

やっとのことで気に入ったM女性を奴隷にすることができそうなあなたはいくら取り繕って見たところで心の中は笑顔で一杯のことでしょう。

何度もそういう出会いを経験してきた人だってやはり嬉しさは変わらないのですから。

道具の準備はできていますか？ まだの方は急いで買いに走りましょう。

大きなバッグを膨らませていざ出陣です。

でも・・・ ちょっと待った！ なのです。

「とりあえず、相性が合うかどうかプレイしてみようか。」

強引にうなずかせることはできるかもしれませんが。

せっかくのチャンスが目の前にぶら下がっているのに見逃すことはないと思いますか？

一度きりのつもりならそれでもいいでしょうね。

ですが、「支配と服従」を目指すあなたならそうして欲しくはないのです。

M女性なら誰にでも手を出すようなご主人様に、奴隷として心から「服従」を誓うM女性についてはこないでしょうから。

はっきりと主従関係を確認するまでは、お互いがSとMであることを知っている、ただの男と女。

試しに命令を出したり、試しにプレイをしたりでは、あなたへの信頼など生まれるはずのないことをお忘れなく。

メールや電話でお互いを確かめあったり、直接会って話をしたりということを重ねた上で主従関係を結ぶことになったとしても、奴隷があなたのことを「ご主人様」と呼んでしまえばこっちのもの、何をしようとこちらの勝手、溜めに溜めたSの本能を爆発させてやるなんていう気持ちでいたら主従関係はあっという間に崩壊してしまいますよ。

まず初めにあなたの奴隷をどんな風に育てていきたいかよく考えてください。

どんなところを伸ばし、どんなことを引き出してあげるか、もちろん時間と共に変化していくでしょうが、何の考えもなしに欲望のまま調教をしたいだけでは「支配」ではないのです。

あくまでも奴隷を育てる方法のひとつとして調教を行うのが「支配」なのですから。

道具の準備も大切ですが、最初の一步を踏み出すその前にどうか心の準備もお忘れなく。

さて、最初の一步にあたってひとつ注意しておきたいことがあります。

奴隷があなたのことを初めて「ご主人様」と呼ぶためには、それなりの覚悟と決断が必要なことはご理解いただけると思います。

もちろん誰もがすべてというわけではありませんが、「ご主人様」と呼ぶことにたいしての憧れから、そう呼べることになった自分に酔っていることがあります。

「ご主人様」と呼べる人ができたことを喜んでいるのであって、「あなた」がご主人様になってくれたことを喜んでいるのではないかもしれません。

ちょっとキツイ言い方をすれば、条件さえ合えば誰でも良かったのかもしれない。

最初はそんなものなのかもしれませんが、たとえどんなに時間がかかろうと、あなたに出会え、あなたを「ご主人様」と呼べるようになったことがどんなに素晴らしいことかを教えてあげなくてはなりません。

他の誰でもなくあなただけを必要としていることを心に焼き付けるのがご主人様の役目なのです。

体を縛る縄はお金さえ出せばすぐにでも手に入りますが、心を縛る縄はお金を出しても手に入りません。

カバンを膨らませる前に、あなたの心を膨らませてください。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

ご主人様初級講座

§ 3 初めての気持ち

あなたの前に正座してご挨拶をする奴隷を見て、あなたは何を思うでしょうか。

ただ嬉しいだけ、それともその後のことで頭がいっぱいでそれどころではないですか。

でも、ここまで来るのにあなたの奴隷は並々ならぬ覚悟と決心をしているはずです。

これからあなたの奴隷を大切にしていきたいと思うのなら、その姿をよく見てあげてください。

一口に奴隷といっても、いままでにまったくSMの経験をしたことがない人から過去にご主人様がいたことのある人まで千差万別だろうと思います。

でも、今までの経験を得意げに話す奴隷はいないと思います。

むしろ、大事なご主人様となったあなたと会う前のことは消し去りたい過去なのかもしれません。

では、これまでの経験についてはふれない方がいいのでしょうか。

そんなことはありません。

奴隷が今までにしてきた経験をしっかりと把握するのはご主人様の義務だと思ってください。

そして、それを正直に話すように命令してあげてください。

ご主人様には知られたくないこと、隠しておきたいことなど存在しないことを教えてあげてください。

ここで一番重要なことは知ることではなく、ご主人様に対して秘密を持つことは許されないということをお知らせすることです。

奴隷が何も話さなくてもすべてお見通しなんていうことができるのは神様くらいのもので
す。

どんな些細なことでもご報告することが自然にできるようにさせてこそ「支配」が成り立
つのです。

奴隷の中には、ご主人様と呼ぶべきではない自称Sに騙されたり裏切られたりした人もい
るでしょうし、あなた以外にはけして言えないような辛い経験をした人もいるでしょう。

恥ずかしいから話にくいのではなく、ご主人様に申し訳ないと思うから話にくいので
す。

そんな想いを話させた後は、ちゃんと褒めてあげてくださいね。

「よく言えたね。」の優しい一言は、奴隷にとっては何にも換えがたい宝物なのですから。

そしてあなたの大切な奴隷に、自分があなたの奴隷になるために生まれてきたのだという
ことを教えてあげてください。

ただ偶然に出会ったのではなく、2人が出会う時期が来たからあなたが奴隷の前に現れた
ということ。

そして、それまでにしてきた経験はすべてあなたに出会うために通らなくてはならない道
だったということ。

でも、あなたの奴隷になった今、それはすべてが役目の終わったことなのです。

奴隷が何も恥じることなく自分を差し出すことができるようにしてあげられるのは、あな
ただけなのです。

すべてが新しいスタートなのですから。

何もかもが 初めての気持ち になれるように導いてあげてください。

そして、その気持ちをいつまでも忘れないように躡けてあげてください。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

ご主人様初級講座

§4 優しさの苦しみ

主従関係を結んで何ヶ月かが過ぎようとする頃、いろいろと悩みもでできますね。

自分の思い通りにならないこともしばしばでしょう。

最初が肝心とばかりに厳しく躰をしたら奴隷がついてこれなかったり、逆にゆっくり育てようと最初は優しくしてあげていたら奴隷が勘違いしたりと。

奴隷を躰けるといのは難しいものですね。

でも、M女性というのは普通の女性よりはるかにデリケートな存在なのをご存じの上で主従関係を結んだのですからしっかりと育てていかなければなりません。

さて、お互いのいろいろなことがわかってきて、これからご主人様として不動の地位を築いていこうとする時にあなたはどんなことに注意すればいいでしょうか。

自分が奴隷であることをしっかり自覚させるために言葉遣いや態度を躰ける。

S Mは「飴と鞭」、きちんと命令に従えたときは誉めてあげる。

奴隷が命令に躊躇している時、戸惑っているのか嫌悪しているのか見極める。

それから それから・・・

あなたはあといくつ考えられますか？

とても大切なことですから、いっぱい考えてみてください(^^)

でも、あなたのご主人様として無くてはならない存在になるためにはもっともっと大事なことがあります。

あなたの奴隷は、時としてバランスを崩しそうな不安定な自分をコントロールしてもらえる存在としてご主人様を求めていたはずで。

ご主人様となった今、あなたは奴隷の「心の安定」を与えてあげることに最大限の努力をするべきだとは思いませんか。

せっかくご主人様が出来たというのに、以前よりいっぱい悩みを抱え込んで心が不安定になってしまったのでは「支配と服従」にはほど遠いことがおわかりいただけるでしょうか。

では、いったいどんなことに注意すればいいのでしょうか。

それは奴隷がご主人様にたいしてどんなことでも素直にお話ができるようにしてあげることなのです。

奴隷の悩み、苦しみ、喜び、すべてを受け止めることができこそ「俺はお前のご主人様だ」といえるのです。

奴隷にとっては、こんなことをお話ししていいものか、こんなことを言ったら叱られるんじゃないかという迷いがあります。そして、もしそれを口にしてご主人様に嫌われてしまうんじゃないかという怖さもあるわけです。

もちろんご主人様によって「どこまで」の基準が違うでしょうからそれを教えてあげることも大切だとは思いますが、できればご主人様にたいしての悩みですらご主人様に相談できるようにさせたいものです。

もちろん奴隷としての節度をわきまさせた上でのことではありますが。

主従関係の悩みを他の人に相談されるのはご主人様としてあまり愉快的なことではありませんからね ^^;

ということで、ここで<ミニミニ初級講座>です(笑)

奴隷の日常におこった出来事を何でも話させるようにしましょう。

ただし、命令ではあっても強制するのではなく、ご主人様にご報告するのがごく自然なことに感じられるように躡けてあげるのです。

なんでも受け止めることが煩わしいとか面倒くさいと感じるようでは「支配と服従」は成り立ちませんよ ^^;

でも、なんでもハイハイと聞いていたのではこれまたご主人様としては失格です。

叱るべき時は叱り、誉めるべき時は誉め、アドバイスするべき時はしっかりと。

「さすが私のご主人様 (*^^*)」と認識させましょう。

こうなっこそ始めてご主人様になんでも話せる奴隷になれるわけです。

以上、<ミニミニ初級講座>お終いです(^^)

さてさて、ご主人様というのは大変なものです。

あなたが真のご主人様として奴隷にとってなくてはならない存在になるためには並々ならぬ努力と忍耐が必要かもしれません。

「支配と服従」を目指すご主人様には時として、厳しくするべき時に優しさが出てしまったり、優しくするべき時に迷いが出てしまったりすることもあるかもしれません。

奴隷に「心の安定」を与えてあげるためには、まず自分の心のバランスが取れなければなりませんね。

でも、この「優しさの苦しみ」を知っているからこそ奴隷を大きな心で包んであげることができるということもお忘れなく。

「優しさの苦しみ」はあなたの心のバランスを写す鏡なのです。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

ご主人様初級講座

§5 永遠の愛奴

どんなに経験を積まれたご主人様であっても、主従関係を続けていくというのはなかなか大変なことです。

奴隷の前に現れるいくつもの壁を、時には取り払い、時には乗り越えさせながら、少しずつ馴染ませていくのはとても大きなエネルギーを必要とするからです。

時には奴隷があなたから離れていくのではないかと不安になることだってあるかもしれません。

そして時にはあなたが奴隷を躰けていく情熱を失いかけることだってあるかもしれません。

こうしていくつもの峠を越えながら「支配」を作り上げていかなければならないのですから。

まだ奴隷を飼ったことのないS男性はこう思うかもしれません。

「なんかえらく大変そうだなあ・・・」

そりゃそうですよ、ホントに大変なんですから ^^;

でも、「支配と服従」を目指すご主人様ならきっといつか領いてもらえると思います。

たしかにM女性と出会い奴隷にすることはそうそう簡単なことではありません。

しかし、ご主人様になること、ご主人様であり続けることはそれ以上にもっと大変なことなのです。

夢々、甘い幻想を抱かないように（笑）

さてさて、話は変わりますが「愛奴」という言葉を聞いたことがありますか？

愛しい奴隷とでもいうのでしょうか。

奴隷として愛しているのか、愛する女性が奴隷なのか・・・

どちらにせよ、奴隷に対しての最上級の表現であることには間違いはなさそうです。

では、ご主人様の中で「おまえは私の奴隷だ」から「おまえは私の愛奴だ」に変化するの
はどんな時なのでしょう。

これまた人それぞれでしょうから、最初から「愛奴 愛奴」と連呼する人から、心の中
では思っけていてもけして口に出すことがない人までいろいろでしょう。

何をもって「愛奴」とするかはぜひご自分で頭を捻ってお考えいただきたいものです。

でも、「支配と服従」をめざすご主人様なら奴隷を「愛奴」と呼ぶにはそれなりの覚悟を持
っていただきたいのです。

たとえ何があろうとあなたの奴隷があなたから離れていくことなどあり得ないという自信、
そして、たとえ何があろうとあなたが奴隷を見放すことなどあり得ないという決意。

このふたつをいつまでも持ち続けることができる、そう思えたときあなたの中で奴隷が「愛
奴」に変わっていくのです。

たとえ口に出さなくても、あなたが奴隷を「愛奴」と決めたその気持ちは強い力で奴隷に
伝わっていくはずです。

そして、奴隷の持っていた不安という縄による呪縛から解放し、ご主人様の心の縄で縛る
ことができる日は、あなたのすぐ目の前にあるはずです。

「永遠の愛奴」とは、奴隷がご主人様に捧げる言葉ではなく、あなたが奴隷に授ける自信と決意の現れなのですから。

あなたの奴隷を「愛奴」と心に決める日が一日もはやく訪れますように・・・

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

奴隷初級講座

本講座はSM公開講座を受講し、さらに「服従」をめざしていきたいM女性のために開講いたします。

もしあなたが刺激的なSEXの延長としてのSMや、被虐的な欲望を満足させるだけのSMがお望みなら、ここから先は読むだけ時間の無駄です。

どうか大切な時間を無駄になさいますように。

§ 1 ご主人様の見分け方

§ 2 怖さの克服

§ 3 心の痛み

§ 4 辛い気持ち

§ 5 ご主人様がすべて

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

奴隷初級講座

§ 1 ご主人様の見分け方

パソコン通信やi n t e r - n e tの発達した今、S男性を見つけるのも知り合うのもいとも簡単にできます。

S M系の掲示板を見れば自称Sを含めて大勢の方がM女性を探していますしね。

さあ、どの人にしようかな・・・なんて考えるわけないですよ。

初心者のM女性にとって、まず初めに「私は本当にMなんだろうか」という疑問があります。

そして次が「S Mの世界に足を踏み入れてしまったら、もう元には戻れないんじゃないか」という不安です。

このふたつに答を見いだせないために、あと一歩が踏み出せないんですよ。

相談できる人を探す手段を知らない人は一人で悩むしかありませんが、この講座を読んでいるあなたなら答を見つけようと思ってS男性にメール等で相談してみたりできるわけです。

しかし・・・

誰かに相談したいと思っている方ならば、自分の心の奥ではもうとっくに結論は出ているはずなのです。

はっきりいえば誰かに背中を押してもらいたいだけなんです。

ほんとうは、相談を持ちかけて自分の感性にピッタリと合う答を返してくれる相手を探しているんです。

いくら否定してみても服従を誓うべきご主人様を求めていることに変わりはないのです。

さて、いろいろと反論はあるものの悔しいけどその通りかもしれないという方にはそ~つとアドバイスをしましょう。

これだけおおっぴらに書いといて、そ~つともないか(爆)

判断基準はただひとつ。「自分のすべてを委ねられるかどうか」です。

そのために眼も耳も心も全身を総動員して感性を研ぎ澄ましてください。

短い時間であってもきっと何かが聞こえてくるはずですよ。

条件を挙げれば切りがありませんが、自分を受け入れてもらえるだけの大きさがなければお互いに不幸な結果を招くだけです。けして軽々しくご主人様とお呼びすることのないように、しっかりと覚悟を持たなければなりません。

それから、いくつかの注意を覚えておいてください。

たとえどんな場合であっても奴隷の誓いを捧げるまでは、お互いの性癖を知っているにすぎない対等な関係であることをお忘れなく。

命令を聞く必要もありませんし、ましてや粗暴な言動や態度を受けるいわれはないのです。

M女性ならば何でも言うことを聞くなんていう勘違いをしているS男性なんてゴロゴロ転がっていますから気をつけてください。

「お話だけっていったのに・・・」

それ以上のことがお望みだったのならば何も言いませんが、飢えた狼に「支配」の心は絶対に存在しないのです。

それから、相手がS男性なのですからM女性としてそれに相応しい言葉遣いと態度を取るべきですよ。

さっきのお話と矛盾してませんか？と言われるかもしれませんが、お相手のS男性だってあなたのことを見極めようとしているのですから失礼のないようにしなければなりませんね。

ご主人様になっていただくかどうかは別にして、これは最低限のマナーであることをお忘れなく。

もちろんあなたが相手を本物のS男性と認めればの話ですが。

実際にはあなた自身の判断であるにしても、心の中では奴隷として選んでいただくという気持ちは失ってほしくないものです。

そしてあなたが気に入られて主従関係を望まれた場合、はっきりと返事をしなければなりません。

つまり、断るならきちんと断るべきです。

「もう少し考えさせてください・・・」は、限りなくYesに近い返事と取られると思ってくださいね。

ほんとは・・・なのにね(笑)

あくまでも勘違いさせないようにしっかりとお断りしてください。

ご主人様を見分けるということは、あなた自身の人間を見る目が試されるということです。

あなたを「支配と服従」に導いてくれるご主人様は待っているだけでは決して現れてはくれませんよ。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

奴隷初級講座

§ 2 怖さの克服

ご主人様になるかもしれない方との出会い・・・

もしかしたらこの方の奴隷になるのかもしれないと思いながらの初対面。

ワクワク、ドキドキ、そして怖さもいっぱい。

何が怖いかといわれてもなんとなく不安がいっぱいで、何がどう怖いのかよくわからないという人の方が多いのではないのでしょうか。

まさか相手がサディストだからというだけで盲目的に主従関係を結ぶ方はいないとは思いますが、自分自身で「私はこの方の奴隷にさせていただきたい」と決心するためには、自分自身が納得した上で決めるべきですよ。

自分で決めるということは、無理矢理にではなく自ら望んで奴隷にさせていただくのですから、後で言い訳ができないということです。

ですから、その決断をする前に何が不安なのか何が怖いのかを自分自身でよく考えて、その上で「この人ならすべてをお任せできる」と納得するほうがいいのではないですか。

ということで、今回はこの怖さについて考えてみたいと思います。

まず最初に、相手つまりご主人様になるかもしれない方に対しての怖さです。

初心者、特にプレイの経験が少ないM女性にとっての怖さは、自分自身のSMについての知識が少ないために何をされるのかがわからないということです。

何をされるのかというよりも、何が自分を待ち受けているのか具体的にイメージできないということなのかもしれません。

SMは時には危険を伴う可能性もあるのですから、相手の力量に不安が残るようでは困りますよね。

豊富な経験を持っておられる方ならそれはそれでいいでしょうし、初心者であってもそれを素直に認められる方なら問題は少ないと思います。

問題なのは、ほんとうは初心者に毛が生えた程度なのに「俺は何でもできるんだ」というタイプです。

自信過剰というか誇大広告というか、こういう方は「どんなプレイがお好きですか？」なんていわれると、見たり聞いたりした知識を総動員して語りまくるかもしれませんが、それでウツリしないように気を付けてくださいね。

「支配と服従」を目指すあなたには、「何をするかは私の決めること。あなたはそれに従えばいいんです。」なんていうのでウツリしてもらいたいところなんですけど（笑）。

さて次はあなた自身の内にある怖さです。

あなたの中で渦巻いているいろいろな怖さを一言で表現すると、ご主人様についていくことができるかということです。

素直に命令に従えるだろうか、どうしても従うことが出来ないような時はどうしよう、ご主人様は私で満足していただけるだろうか。

もう考えても切りがないほどの不安で一杯ですね。

しかし、あなたは快樂を得るためにS Mプレイのパートナーを求めているわけではないんですから、こんなことに惑わされてはいけません。

自分は立派な奴隷になれるのかではなく、いつか立派な奴隷になれるように育ててもらうためにすべてを捧げるのだということを忘れてはいけません。

人間としてもMとしても未熟なあなたを調教していただくためにご主人様が必要なのではないですか。

従えること従えないことを含めてあなたのすべてを理解して育てていくのが「支配」なら、自分の内にある怖さをさらけ出して仕えるのが「服従」なのですから。

あなたの持つ怖さを抱いたままありのままのあなたを捧げる勇気を持ってください。

そして、この方についていきたいと思ったら、戸惑いを捨てて「私を奴隷にしてください」とお願いする勇気を持ってください。

それが怖さを克服する唯一の方法なのですから。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

奴隷初級講座

§ 3 心の痛み

よく、ご主人様は絶対的な存在なのだから奴隷のことはなんでもお見通しでいて欲しいという方がいらっしゃいます。

もちろん、ご主人様はそうなることを目指しているわけですが、だからといって最初からそんな訳にはいかないんですって(^.^;

ご主人様になっていただいたばかりなんですから、あなたのすべてを知っているはずがありません。

奴隷のすべてを知り抜くことが「支配」なら、ご主人様にすべてを知っていただくことが「服従」なのです。

すべてお見通しになっていただくには長い時間とあなたの奴隷としての努力が必要なのです。

わかっているための努力が・・・。

あなたのことを知ってもらうためには、何も隠し事をしないで何でも話しお見せするのは当たり前のことですが、ごく自然に素直にそうできるようになることも肝心です。

しかし、もっと大切な努力があるんです。

ご主人様が何もおっしゃらなくても、いま何を求めていらっしゃるかわかるようになることの方がずっと大切ではありませんか。

ご主人様に本当に気に入っていただくためには、ご主人様が何を望んでいらっしゃるのかを感じ取れるようにならなければいけませんね。

そのためには、いろいろなことをお話しさせていただき、いろいろなことを経験させていただきながら、長い時間をかけてはじめてご主人様が何を考えられているかわかるようになるのですから、けして焦る必要はありません。

ご主人様への「服従」はただ従順に受け入れるのではなくいろいろな意味でどれだけ尽くせるかですから、「ご主人様が出来たぁ～(*^^*)」なんて喜んでるだけじゃダメですよ。

さて、ご主人様に気に入っていただける奴隷になるために頑張らなくちゃ・・・とっていると、胸にチクッと痛みの走ることがあります。

自分にとってはかけがえのない大切なご主人様。
でも、ご主人様は本当にこんな私でいいのかしら・・・
私はご主人様に相応しい奴隷になれるのだろうか・・・

もし、ご主人様にお尋ねしても、お前じゃダメだとはいわないでしょうから（笑）その時は納得できます。

だからといって、「ご主人様はこんな私でいいと言ってくださったの～(^ ^)」ってニコニコしてちゃいけませんよ。

そのうちにまた、チクッと心に痛みが・・・
（わかりますか？ 無意識に出てくるMの自虐本能が(^ ^;)

しかし、ただ「支配」を受け入れることだけが「服従」ではないことが理解できれば何も悩むことはありません。

いまの自分に満足することなく、もっともっとご主人様のことを大切に想わなくちゃという気持ちを忘れずに、ご主人様に気に入っていただける奴隷になるように努力することが、心の痛みを解消する方法なのです。

そうしてあなたが奴隷として成長していくことが、ご主人様の喜びだということをお忘れなく。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

奴隷初級講座

§ 4 辛い気持ち

あなたがご主人様にお仕えするようになって、いろいろなことで叱られたりいろいろなことを教えていただいたりして、その度ごとに何かを学び何かを感じてきたと思います。

そして、そのたびごとに心に決めたこともいっぱいあると思います。

ご主人様に心配をかけたりしないようにしようとか、ご迷惑にならないように気を付けようとか、ワガママを言わないようにしようとか・・・

でも、いくら心に決めたからといってすぐその通りに出来るはずはありませんよね。

もう絶対に・・・と思っても、しばらくすると（すぐという噂もありますが ^^;）また同じ事で叱られてしまったり自己嫌悪になったりして。

いくら大反省してもなかなかうまくいかないものですね。

まあ、あれやこれやと悩みの種は尽きないとは思いますが、その中でもなかなかしぶといのが「寂しさ」というやつです。

ご主人様ができた～(*^^*) といって悦んでいたのも束の間に、ご主人様がお忙しくてなかなかお会いできない～とか、家庭のある方なのでお休みの日にはお会いできないの～とか などなど。

でも、この「寂しさ」は「会えない」ことにすべての原因があるのでしょうか。

ご主人様が遠くにいらっしゃる方だと何ヶ月に一度しかお会いできないかもしれません。

これでは寂しさを感じてもしかたがないかもしれませんが、かといって毎月のようにお会いできたとしても悦んでいられるのはほんの少しの間だけ。

またすぐに思ってしまうんです。 「もっとお会いしたい・・・」

たとえご主人様がすぐそばにいらっしゃる方で毎日のようにお会いしていただける方であっても何日かお会いできないだけでもきっこう思うはずですよ。

「寂しい・・・」と

もし、この寂しさを経験されたことのあるM女性のご主人様と一緒に暮らすようになって、毎日お会いできるようになっても（当たり前か（笑））その内きっこう思うはずですよ。

「なかなかお会いできなくて涙を流すほどのせつなさが恋しい・・・」って。

M女性はただ寂しがり屋なのではなく、人一倍ワガママな寂しがり屋なのです。

「寂しさ」を克服するには、あなたの中の心のご主人様の存在の大きさを見つめて、たとえ手の触れられない距離にいても常にあなたを見守ってくださることを感じられるようにならなければなりません。

ただし「寂しさ」を克服するということは「寂しさ」が無くなるということではないのです。

お会いしていないときであっても常にご主人様の存在を感じていただけるようになって「寂しさ」に耐えられるようになるということなのです。

ワガママな自分の心を野放しにしていたのではあなたの欲求は際限なく大きくなっていくばかりですから、ご主人様というかけがえのない大切な存在を失わないためにも自分の気持ちをきちんとコントロールできるようになっていくこともよい奴隷として成長するためには必要なことなのです。

そして、それはただ単に奴隷としてだけではなく一人の女性として成長することでもあるわけです。

ご主人様に奴隷として飼っていただいているのですから、その期待を裏切らないようにご主人様に相応しいよい奴隷に、そしていい女性に成長していくことを目指してください。

ご主人様がいらっしゃるからこそ生まれる不安や寂しさや悲しさもたくさんあると思いますが、どんなに辛くてもご主人様のためにそれを克服していくのが奴隷としてのあなたの「服従」なのです。

あなたがご主人様をかけがえのない大切な存在だと思っているのなら、たとえどんなに辛くても、ご主人様に「お前なんかもういない」といわれること以上に「辛い気持ち」なんてあり得ないのですから。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

奴隷初級講座

§ 5 ご主人様がすべて

ご主人様にお仕えするようになって一生懸命についていくためには、いろいろな不安や辛さを克服していかなければなりませんね。

でも、ここでひとつ注意しておかなければならないことがあるんです。

それは、不安や辛さを克服するということは「我慢して耐えていく」のではないということなのです。

我慢しているという気持ちがどこかにある以上、それに慣れてしまったり忘れてしまうことなどできるわけがないのです。

そして、いつまでたっても無くなることがないどころか、いつかはそれが爆発してしまうこともあるでしょう。

調教の時に我慢したり耐えたりすることとはまったく違うのだということをぜひ理解していただきたいのです。

では、どうすれば克服していけるのでしょうか。

あなたの中に抱え込んだ不安や辛さという後ろ向きの気持ちを、ご主人様を信じてついていこうとする前向きな気持ちで打ち消すことができるように、あなた自身が成長していくことなのです。

もちろん、それがわかったからといってすぐにできるわけなどありませんよね。

悩んだり苦しんだり、時にはご主人様を信じられなくなりそうになったりしながら、少しずつ少しずつ打ち消していけるようになっていかなければならないのです。

そのためには、ご主人様を信じてついていこうとするあなたの強い気持ちが必要です。

たとえ何があっても・・・

もし途中で挫折するようなことがあれば、ご主人様に出会う前の不安定な自分にまた逆戻りしてしまいますよ。

孤独なM女性としての不安と、ご主人様と出会ってからの不安が、まったく別次元のものであることはあなた自身がいちばんよくわかりだと思えます。

「支配と服従」を目指すあなたには、この克服の意味を理解して成長していただきたいと思えます。

ところで、ご主人様を信じてついていこうという気持ちを高めていくときに、もうひとつ注意しなければならないことがあります。

それは、ご主人様を信じてついていくということと、ただひたすらに命令に従順に従っていくこととは違うということなのです。

「それじゃ 命令に従わなくてもいいんですか～？」

いえいえ、早とちりしないでくださいね ^^;

あなたはご主人様に「服従」を誓った奴隷なのです。

ただ命令されたら従うだけでは、SMのパートナーのいるただのM女性でしかありません。

いつかご主人様に悦んでいただけるような奴隷になりたい・・・

そのためにはご主人様に心配をかけないように、あなた自身が不安を克服し、奴隷として、女性として、人間として成長していかなければならないのです。

あなたが素敵な女性として生きていけるようになるためには、ご主人様の「支配」が何よりも大切です。

でも、ただ頼り切っているだけではいけないのです。

ご主人様がいなければ何もできない情けない奴隷にだけはならないでくださいね。

ご主人様の奴隷として恥ずかしくない人間に成長すること。

それこそがご主人様を信じてついていくことなのだと思いますか。

そして、ご主人様を信じるということは、あなた自身を信じるということなのです。

ご主人様の元で成長していけることを信じて自分に自信を持つことが、ご主人様にたいしての何よりの「服従」なのですから。

あなたが「ご主人様がすべて」と思う気持ちの大きさが、あなたを支える大きな力になるのです。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

本講座では支配と服従における「躰と調教」をテーマにいたします。

本講座の前に必ずS M公開講座 「支配と服従」を受講し、さらに「支配と服従」をめざしたい方のために開講いたします。

なお、S Mプレイを中心とした直接的な行為について言及することはありませんのであらかじめご了解くださるようお願いいたします。

§ 1 スイッチとボリューム

§ 2 タバコの煙

§ 3 正 装

§ 4 気力と体力

§ 5 土 台

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§ 1 スイッチとボリューム

ご主人様が奴隷を飼う上で支配をどのように及ぼせるのかというのは大切な役目であるとともに重要な課題です。

その中のひとつに、ご主人様として奴隷のM性を解放するということがあると思います。

しかし、調教の時と同じように一日中フルにM性を解放させっぱなしではまともな日常生活には適応できませんよね。

この場合に大切なのは、いかにしてM性を解放し、いかに元に戻すかということになるでしょう。

どのようにして、という具体的な方法についてはいつかお話しする時が来るかもしれませんが、ここでは省略です ^^;

さて、このM性を解放したり元に戻したりということを、照明のスイッチを入れたり切ったりという意味で、「スイッチ」というように表現してみたいと思います。

二人で会っている間だったり調教の間だったりスイッチが入っている間というのはそれぞれだと思いますが、たとえばスイッチが切れている時は恋人どうしだったり仲のいい友達だったりというような主従関係の場合には、スイッチが入っている間にご主人様の支配の及んでいる時間だということができるでしょう。

「私はおペット様なのよー！」というような場合は、スイッチが切れている時はまるで主従が逆転しているかのようなことがあるのかもしれませんが（笑）

ここでひとつ注意しておかなければならないのは、M性のスイッチは「入り易く切れ難い」ということです。ご主人様が何もなくてもご主人様の顔を見ただけで声を聞いただけでもスイッチが入ってしまうように奴隷が自分でスイッチが入ってしまうくらい入り易いのですが上手にスイッチを切るといのはなかなか難しいことなのです。

もちろん奴隷が自分でスイッチを切るなんて、できることでも許されることでもないのですから、きちんとスイッチを切ってあげる、きちんとスイッチを切ってもらう、ということをしかりと意識するように心がけましょう。

さて、ご主人様と一緒にいないごく普通の日常生活をおくっている時にはご主人様の支配がまったく及ばない場合があります。

奴隷としての自分とそれ以外の自分というのをハッキリと区別しておかなければ、常に束縛されている状態には耐えられない方もいるからです。

しかし、これとはまったく対称的に奴隷を一日中支配の中に置くという場合ももちろんあります。

たとえご主人様と離れている間であっても奴隷という身分は変わりなく・・・
とはいっても、「支配と服従」でいう日常生活の中の支配というのは、スイッチを入れている間のような強いものではありません。

これを、適度に小さく心地よいBGMのようなレベルにボリュームを下げているときのよ
うな支配という意味で、「ボリューム」というように表現してみたいと思います。

ということで、ボリュームを上げたり下げたりという場合は強弱はあるものの完全に下げ
きってしまうという意味で、途切れることなく常にご主人様の支配が及んでいるとい
うことになるわけですから、調教の時以外は恋人同士というような主従関係には不向きだ
ということになります。

ボリュームを上げた時というのはもちろんスイッチを入れた時と同じ状態なわけですから
特に説明の必要はないでしょうが、このボリュームをBGMのレベルまで下げた状態とい
うのがどのようなものかということ、一言でいうとご主人様の存在が与える影響ということ
になります。

ふんわりとした暖かみのある安心した気持ちとでも言い換えてもいいかもしれません。

たとえば主従関係とは無縁なことで、何かを決めなければならないというような時にふとご主人様ならきっと「こうなさい」とおっしゃるだろうとか、何かこまったことがあった時にご主人様が側で見ているような気がして「ご主人様に恥ずかしくないようにしなくちゃ」というような影響です。

離れている時もいつも見守っていてくれるという実感が奴隷をいい方向に導いていくような影響を与えるわけですから、調教を日常生活に延長するのではなくご主人様の支配が日常生活にも緩やかに及ぶということなのです。

ただし、「スイッチ」とは違いどんなときでもご主人様と奴隷という意識から離れることができないわけですから、適度なレベルにボリュームを下げておくというのは、そうそう簡単なことではないことをご理解いただきたいと思います。

「スイッチ」と「ボリューム」、どちらにしてもそれぞれの主従関係によって違ってくるでしょうからどちらが優れているということではありませんが、どちらにしても初心者にもすぐにできるほど簡単なことではありません。

「支配と服従」では、奴隷を人間として女性として成長させるために躑け、そして調教していくのですから、スイッチとボリュームどちらにしても上手に使っていけるようにならなければなりませんね。

くれぐれも、スイッチの切り忘れにはご注意を！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§2 タバコの煙

今回は、一見どうでもいいように思えることでも「奴隷の躰け」ができる、ということをつタバコを題材にしてお話してみたいと思います。

最近ではタバコを吸わない人も多いですが、私はしょっちゅうもくもくと煙を出してます。

だからなんだ！ 健康に悪いぞ！ と言われてしまうと話が続かなくなるので、タバコの善し悪しはいちおう置いて、ご主人様がタバコを吸う方だということにしておいてください ^^;

さて、タバコを吸うというごくあたり前の行為をどのように「奴隷の躰け」に結びつけていくのかについて考えていきましょう。

【基本編】

ご主人様の立場から

ご主人様がタバコを手にしたら奴隷としては火をつけるのがあたり前だと思いますか？

「俺がタバコをくわえたら火をつけるのはあたり前だろう」 ごもっともです。

でも、何も言わなくても最初からそれが当然だと思っているM女性はあるまいと思わうんです。

火をつけさせるのもつけさせないのもご主人様の自由ですが、「タバコを手にしたらすぐに火をつけなさい」と命令するのを忘れないようにしなければなりませんね。

躰けの第一歩は基本的な命令からということです。

奴隷の立場から

ご主人様の「火をつけなさい」というご命令に従うためには、いつでもどこでもご主人様の動きに注意していて、タバコを手にしたらすぐに火をつけられるようにしていなければなりませんね。

つねにご主人様の動きに注意している、これが重要なポイントです。

ちゃんと見ていることができないようでは、ご主人様が何を求めているのかが判るようになるなんて夢のまた夢ですよ。

もちろんボ～っとしていてご主人様がタバコを手にしたことに気がつかなかったなんていうのは論外ですが、ご主人様のご命令なんですから「あ、忘れちゃった ごめんね えへへ (*^^*) 」では済まされません。

まあその時はお叱りを受けるかお仕置きが待っているかもしれませんが、それを期待してわざと気がつかないフリをするのは・・・ ご自由に（笑）

【中級編】

ご主人様の立場から

最初のうちはそれなりに気をつけてはいても、少し慣れてくるとタバコを手にしても反応がなかったりする時もあるでしょう。

さて、そんな時ご主人様としてはどうすればいいか考えてみてください。

といっても人それぞれですから、正解があるわけではありませんけど。

- 1 - 厳しく叱る
- 2 - 黙っておいて後でお仕置き
- 3 - 自分で火をつけてしまう
- 4 - 「タバコ！」といって火をつけさせる
- 5 - 眼を見つめて気づかせる

はぁ～ まだあるでしょうけど、とりあえずはこんなところで。

どうするかはご自由ですが、その時の気分次第で対応が違うというのは困りものです。

叱るべき時は叱る、誉めるべき時は誉めるというように、奴隷に命令したことへの対処には一貫性があるべきだと思うのですがいかがでしょうか。

奴隷の立場から

たとえ自分がタバコを吸わなくても、いつもライターを持ち歩くように心掛けたり、ご主人様とお会いしている間はライターをお預かりしておくというようなことを考えておくことも大切なことです。

もちろんご命令には忠実に従うのが基本ですが、その中で自分に何ができるか何をしてさしあげられるかを考えていくことによって一歩前に進むことができるのです。

「タバコに火をつけなさい」という単純な命令だけでもライターのこと以外にもいろいろなことが考えられるはずです。

灰皿が使いやすい位置にあるように気をつけたり両手で持つなりして、火をつけた後も気持ちよく吸っていただけるようにすることもできるでしょう。

ご主人様と一緒にお茶を飲んだりお食事をしたりする時に、何本も吸い殻が溜まった灰皿をお店の人が取り替えにくるまで待っていたりお店の人を呼んだりせずに、自分で席を立て取り替えてくることだってできるはずです。

ご主人様のタバコがなくなったらすぐにご買ってくるのもいいですね。

もっとも、なくなる前に用意しておくことだってできるでしょうけど（笑）

「ご主人様に何かをしてさしあげたい・・・」

ほらほら、大きな事ばかり考えていないで小さな事からコツコツとですよ（^^）

【上級編】

タバコに火をつけるという単純な行動であるだけに、慣れてしまえばごくあたり前のことになってしまい達成感など希薄なものになってしまうでしょう。

しかし、火をつけるということにもっと深い意味を持たせることができるのです。

「奴隷だから火をつけるのはあたり前」ではなく「奴隷だからこそ火をつけることができる」という発想の転換を試みましょう。

自分の奴隷だからこそ火をつけさせるのであって、他の人には火をつけさせないということになれば、奴隷にとっては命令に従う行為から奴隷に与えられた特権に一変してしまうのです。

奴隷にとっては、タバコに火をつけさせてもらえるのはご主人様の奴隷にさせていただいたからこそできることであって、火をつけることはあたり前のことどころではなく「服従の悦び」として感じることもできるのです。

もし火をつけるときに周りに誰かがいたとしても、それを不思議に思う人はまずいないでしょう。

でも、ご主人様だけは判っているのです、それが奴隷に与えた特権であるということを。

そして、奴隷だけは判っているのです、それがご主人様にいただいた悦びであることを。

【おまけ】

ご主人様が上級編を実行するとなるとそれなりの覚悟が必要になるかもしれません。

接待を受ける席や飲み屋のおねえちゃんからの「火をおつけしましょう攻撃」まで迎撃しなければならぬからです（笑）

そういう時は別にしたっていいじゃないかと思うかもしれませんが、まあそこらへんはご主人様としての自覚にお任せするという事にしましょうか。

くれぐれも、タバコの吸いすぎにはご注意を！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§3 正装

さて、今回のテーマは正装です。

もちろんご主人様の正装・・・ではなくて、奴隷の正装についてです。

奴隷としての正装なのでご主人様の前でお見せする身だしなみということになるわけですが、奴隷がご主人様にお会いする時にどんな服装や下着を身につけるか、これは大いに悩むところではないでしょうか。

あれを着なさいこれを履きなさいというご主人様の命令があれば別ですが、自分で選ぶとなるとこれまた悩めばきりがありません。

もちろん自分の好みというものはあるでしょうが、そこは奴隷たるものご主人様の好みに合わせたいと思うのが当然。（・・・ですよね ^^; ）

「おまえにはこういうのが似合いそうだな」

そうっていただいたのはいいものの、さてさて、いままでの自分のレパートリーの中には無かったものだったり、自分で着ようとは思ったこともなかったような形や色だったり・・・

かなり勇気はいると思いますが、そうしてご主人様の色に染められていくのもまた喜びになっていくのではないのでしょうか。

奴隷の好みを把握して、奴隷の個性とご主人様の好みをミックスさせて、きっとこういう物が似合うはず、そんな風に考えてくださるご主人様だと信じていきましょう（^^）

新しい服を選びながら、さてどっちにしようかなんて迷っているときに、ご主人様の顔が浮かんでくるようになれば取りあえず合格ということにしておきましょうか（笑）

ご主人様の好み、ちゃんと聞いてありますか？

でも、あなたがどんなものを身にまとってしようとあなたはご主人様の奴隷。

ご主人様に支配していただいているのはその中身なんです。

では、奴隷の正装というのは何も身につけない全裸の姿のことでしょうか。

ところが困ったことにM女性というのは着ている物をすべて脱ぎ捨てても、さらに身にまとっているものがあるんですね。

プライドとか、わがままさだとか、その他諸々を着込んでいるうちはすべてを脱ぎ捨ててはいないわけです。

ご主人様の前だけでは必要のないそれらの物をすべて脱ぎ捨ててこそ、あなた自身、本当の奴隷としての姿をご主人様の前にお見せすることになるのではないですか？

ほんの少しでも余計なものを身にまとわない姿、ほんとうのあなた自身、それこそが奴隷の正装だと、私は思います。

とはいうものの、そう簡単にできるものではないですよね ^^;

着ている物をすべて脱いでもまだ取り去れないもの、それを脱ぎ捨てるために、首輪をしていただいたり、縛っていただいたり・・・

そういう気持ちで調教をお受けすることも大事なことになるのではないのでしょうか。

ご主人様の前にいかに本当の自分をさらけ出せるか、もちろん一朝一夕にしてできることではありません。

しかし、そうなれるように努力していくことも奴隷の勤めであることに間違いはありません。

と、まあ ここまでは脱ぎ捨ててしまえば何とかなることなんですが・・・ ^^;

さらに奴隷の正装に磨きをかけてみましょう。

すべてを脱ぎ捨てた後に 『 ご主人様への想い 』 を身にまとうなんていうのはいかが
でしょうか (^ ^)

こればかりはご主人様に教えていただくわけにはいきませんが。

奴隷の正装、それはご主人様にだけお見せする最高の装いです。

くれぐれも、厚着にならないようにご注意を！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§4 気力と体力

奴隷が女として人間として日常生活を送る上で、何よりも大切なことは奴隷としてご主人様に恥ずかしくない生活を送らなければならないということはずでにお話ししたとおりです。

そして、これはそのままご主人様にも当てはまることなのです。

奴隷にとってご主人様はいつでもどんな時でもご主人様であるわけで、ご主人様以外の存在では有り得ないと私は考えています。

ご主人様はいつでも尊敬し信頼できる方でなければなりません。

それはもちろん当然です。

ご主人様としての自分という存在がほんとうに奴隷に必要なのだろうか、飼ってあげることと奴隷に「心の安定」を与えてあげることができるだろうか、奴隷として女として人間としてより良い姿に導くことができるだろうか、それらすべてにYesと言えなければならぬのがご主人様のはずです。

でも、弱いところ情けないところ惨めなところ、そんなところが無い人間なんているわけがありません。

しかし、自分は奴隷を飼うご主人様であるという方ならあえてそれを見せたがる人はいないでしょう。

まして、ご主人様という存在であれば見せてはならないことなのかもしれません。

奴隷の前だけに限らず、日常生活においても「支配」する者としての生き方をしなければならぬはずです。

たとえそれが主従関係とは無縁な出来事であったとしても。

でも・・・

かなり厳しいことをいって見ましたが、だからといって、ずっと気を張り続けていかなければいけないのかというと、それもまた違うと思うのです。

「自分は変態のSだぁ～ だからSMプレイがしたいんだぁ～」というだけの方なら別ですが、ご主人様としてしっかりと奴隷を育てていきたいと思っている方なら奴隷を飼うということ、そしてご主人様でいることそのものすべてに悦びを感じられると思うのです。

そして、ごく自然に意識することなくご主人様としての態度に現れるようになることができればいいのではないのでしょうか。

ご主人様といえども神様ではないわけですから試行錯誤もあれば失敗もあるはずです。

これから良いご主人様になっていこうという成長過程の方だっていますよね。

私がいいたいのは、何もかもパーフェクトな人でなければご主人様にはなれないぞ、ということではないのです。

「ご主人様になる」のは簡単でも、「ご主人様でいる」ことは容易なことではありません。

奴隷はご主人様がコントロールしてくれますが、ご主人様をコントロールしてくれる人はいないのです。

時に感情や肉体の高ぶりが抑えられない時もあるれば、何かで落ち込んでいたり腹を立てていたりする時だってあります。

人間ですから風邪をひいている時もあるれば、疲れはてている時だってあります。

そんな時はご主人様の威厳が保てませんか？

いいじゃないですか。

ご主人様はSとしての自分に正直になればいいんです。

Sであること、そしてご主人様として奴隷を飼うこと、それは自分が自分らしく生きるために不可欠なことなのです。

「ご主人様でいる」ことに無理を感じたり違和感を覚えたりするようでは、自分らしくそして自分に正直にいることにはならないはずですよ。

奴隷がご主人様に飼われることに悦びを感じるようにご主人様でいることに悦びを感じられること、それがごく自然に感じられるようになることを目指していきましょう (^ ^)

何でもかんでも無差別に奴隷へ発散させるなんていうのは論外ですが、自分自身をコントロールできるご主人様ならどんな時だってご主人様なんです。

だから、ナサケナ～イところを見せることだってそりゃあるんですけどば。 もごもご・・・

気力と体力が充実している時だけがご主人様ではありません。

くれぐれも、無理をしないようご注意を！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「躰と調教」

§5 土 台

奴隷にとってご主人様に「依存する」というのはどういうことだと思いますか。

依存する、というからにはご主人様に頼るということですよ。

主従関係なので何かの形で依存していることは間違いないのですから、奴隷がご主人様を頼りにするのは当たり前のことだと思います。

対等な立場ではない主従関係であるからこそ、奴隷は依存することを許され、そしてご主人様はそれを受け入れることになるわけです。

もちろん信頼し尊敬できる存在だからこそ頼りにできるわけですが、ご主人様と奴隷の思っている「依存」という意味がくい違っていたのでは困りますよね。

そこで奴隷の方はご自分のことを考えてみてください。
どのようにご主人様に依存しているのかを。

そしてご主人様の方も考えてみてください。
奴隷がどのように自分に依存しているのか、またどんな依存をさせようとしているのかを。

頼るというのはご主人様の存在があるからこそできることではありますが、だからといって何もかも頼り切ってべったりと甘えることでは決してありません。

ご主人様がいなければひとりで立ってられないような、そんな情けない奴隷にはなっていただきたくありませんし、そんな育て方をしていただきたくないと思うのです。

しっかりと自分で立ってられないからご主人様に支えていただいています
というのでは奴隷にとってご主人様はたんなる添え木としての存在でしかないのです。

誤解しないでいただきたいのですが、「ひとりで立っていられるようになる」ということは「私はひとりっきりでも大丈夫！」ということではありません。

女として奴隷として、何かの形で自分の存在価値を見だしていくということなのです。

なにも大袈裟なことをいっているわけではありません。

たとえば日常でもなかなか自信が持てなかつたり勇気のでないことにチャレンジする時にご主人様の奴隷として恥ずかしくないようにという気持ちで頑張れる自分を見いだすこと。

そしてそれをご主人様が見守っていてくれること。

それだけでもじゅうぶんにシアワセじゃないですか (*^^*)

ご主人様がいなくても生きていけるのではなく、ご主人様がいなければ何もできないのもなく、ご主人様がいるからこそ自分が自分らしく生きていくことができるということなのです。

M女性がご主人様に奴隷としてお仕えすることを自分の意志で決められたのですから、何も自分で決められないおこちゃまなわけではありませんよね。

だからとりあえずは自分で立っていられる一本の「樹」だと思ってみてください。

中にはご主人様と出会う前にできた枝や葉っぱに誇りを持っている方もいらっしゃるかもしれませんが、グラグラしてなんとなく頼りなくて誰かに支えて欲しかったのではありませんか？

なぜかといえば、樹の大きさにみあうだけのしっかりとした根を張っていなかったからなのです。

だからといってご主人様の存在というのは、不安定な樹がぐらつかないように支えている添え木ではないのです。

いつも添え木に寄りかかったままでいてはダメなんですよ。

ご主人様の存在というのは、たとえ嵐が来てもしっかりと立ってられるように根を張るための大地という「土台」なのです。

ご主人様という土台の上に根を張ってしっかりと育っていくことが奴隷の役目だとすれば、奴隷という樹が大きく育ち葉を茂らせ美しい花を咲かせるためにしっかりとした土台になることがご主人様の役目であるわけです。

ご主人様もたんなる添え木にならないようにしっかりとした土台でいるための努力を怠りなく続けていかなければなりません。

そして・・・

信頼できる大きな土台の上で育っていけることに最大限の感謝をして、それに恥ずかしくない人間に成長していこうと努力することが「服従」であるということになるのです。

いままで自分だけで構成していたあなた自身という存在が、ご主人様というしっかりした土台の上でいろいろな意味で安心して暮らせるようになっていくのが「支配と服従」の姿なのだと思います。

くれぐれも、砂の上に根を張らないようにご注意ください！

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「壁の向こう側」

本講座は主従がさらによりよき主従関係をめざしたい方のために開講いたします。

本講座の前に必ず各S M公開講座を受講されるようお願いいたします。

なお、S Mプレイを中心とした直接的な行為について言及することはありませんのであらかじめご了解くださるようお願いいたします。

§ 1 鏡

§ 2 殻

§ 3 窓

§ 4 波

§ 5 扉

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「壁の向こう側」

§ 1 鏡

あなたは自分の姿を鏡で見たことはありますか。

好きとか嫌いとかは別にして、鏡を見たことがない・・・という人はいないと思うんですけど、たぶん。

鏡に映っている自分の姿を見て「こいつは何者？」なんて思う方もいるかもしれませんが、どっからどう見ても自分自身にしか見えませんよね。

もちろん鏡の中にいるのはあなた自身であることは間違いはないのですが、それって本当のあなたですか？

好きな自分、嫌いな自分、いろんな自分を鏡は映してくれますが、その中にいるのは本当の自分でしょうか。

奴隷の鏡

本当のあなたってなんなのでしょう。

いろんな自分がいるからどれが本当のといわれてもねえ・・・ もちろんそれは当然かもしれません。

でも、いろんな自分を全部含めてみんなご主人様のものであるはずですよ。

部分的にここからここまでがご主人様のものというのではないんですから。

よく、「ご主人様の前では本当の自分でいなければならない」といいますが、そうすると自分自身はご主人様の前にいるわけで、でも自分のご主人様のものであるわけで・・・
あぁ ややこしい(笑)

あなたはご主人様にすべてを捧げたはず。

けしてMの部分のあなただけを捧げたわけではないはずですよ。

自分の好きなところ嫌いなところ、いろんな自分、みんなみんなご主人様のもの。

本当のあなたはみんなご主人様の中にあるのです。

奴隷として服従を誓ったあなたの姿を映し出せる鏡はただひとつ。

たったひとつだけの鏡の前で自分を偽ることはできないのです。

ご主人様の鏡

本当のあなたってなんなのでしょうか。

もちろんいろんな自分がいるわけですが、奴隷を飼うご主人様としてのあなたもあなた自身であることに間違いはないはずですよ。

奴隷は俺のすべてだぁ～ はぁと(^.^) それはそれでいいんですけどね ^^;

あなたにすべてを捧げた奴隷はあなたが思った通りに育てられるわけですから、あなたの一部としてあなたの中にいるといえませんか。

そうであるならば、奴隷をあなたの一部としてあなたの意に反することのないように育てなければなりません。

あなたの思う通りに育てられるということは、あなた自身を映していくということになるわけですよ。

あなたの考え、あなたの思い、あなたの好み、あなたそのものを映しこんでいくのですから。

あなたが支配する奴隷はあなた自身を映し出す鏡なのです。

本当のあなたを鏡に映し出せるようにする、それはあなたにしかできないことなのです。

本当のあなたがなんなのか、それほど思い悩む必要はありません。

あなたを映す鏡には本当のあなたしか映らないのですから。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「壁の向こう側」

§ 2 殻

自分ではどうにもならない事ってありますね。

それが何であれ答の出るはずのないことであればあるほどグルグルと螺旋を描いて急降下。

人の気持ちが濁流のように入り込んできたり、受け入れることができなかつたり。

そんな時は心の殻の中に逃げ込んでしまうのが一番ですか？

それとも心の殻の中に押し込められてしまうのかもしれませんが。

分厚い殻の中に閉じこもることで平静を装うことができることもあるでしょう。

でも苦しみや辛さは殻の中にも渦巻いているのが現実です。

なんとかしよう早く出ようと焦れば焦るほど殻は厚みが増していく。

意識的に自分で出入りできる人もあれるかもしれませんが、他人にムリヤリこじ開けられ

るのは苦痛より恐怖に近いかもしれません。

さて、困ったことがひとつ。

けして居心地がいいから閉じこもっていたわけではないにしても、この閉じ籠もり癖がな

かなか抜けなくなってしまうということです。

あれやこれやと壁に突き当たるたびに閉じ籠もりたくなってしまいます。

素直に自分を出せない。

何をどうしていいかわからない。

ときどき襲ってくる不安定さは自分ではどうすることもできません。

誰かに救ってもらいたいと願っても急激な変化はかえって破綻をもたらすだけなのです。

もし誰かが変えることができるとしたら、自分を包み込む大きな存在が心の中の殻と自然

に置き変わっていくというのが最良の方法だと思うのです。

大きな存在にふわりと包み込んでもらう。

それが心の殻の開き方。

自分ではどうにもならない事ってありますよね。

とにかく何かしてみたい。

いろいろなことに挑戦したい。

今までの自分とは違う何かをしてみたい。

殻の中から飛び出していきたい。

自分では明るく元気にチャレンジ と思っているのですが周りから見ると、おいおい

大丈夫なのかな ^^; と、どうにも危なっかしく見えたりします。

自分ではこのくらいでやめておけばいいとわかってはいても、ついついやりすぎてしまったり。

自分はゆっくり階段を登っているつもりなのに、全力ダッシュ！になっているのかもしれない。

いけない、というわけではないのですが限度という歯止めがどこかにいつてしまっているのかもしれないね。

自分では気付かない心の殻の中に閉じこってしまいたくないという気持ちが強すぎるのかもしれない。

さて、困ったことがひとつ。

けして居心地が悪いから飛び出そうとしていたわけではないにしても、この飛び出し癖がなかなか抜けなくなっているということです。

あれやこれやと壁に突き当たるたびに飛び出たくなってしまう。

何のために飛び出そうとしているのかわからなくなってしまうこともあります。

誰かに歯止めを掛けてもらえたらとは思っても、かえって反発を感じちゃったりして。

もし誰かが変えることができるとしたら、殻の外までまるごと自分を包み込む大きな存在

に心の中も外も見守っていてもらうというのが最良の方法だと思うのです。

大きな存在にふわりと包み込んでもらう。

それが心の殻の開き方。

ほんとうの支配を知ることで、その暖かさに触れることによって自分の居るべき場所が

わかるはず。

殻は破るものでもこじ開けるものでもありません。

ゆっくりと包み込んでいくように被っていくものなのです。

ゆっくりと染み込んでいくように満たしていくものなのです。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「壁の向こう側」

§ 3 窓

窓から眺める景色っていつも同じですか？

たとえ窓の外が壁だったとしてもお天気くらいはわかりますよね。

晴れた日ならなんとなく うきうき

雨の日だとなんだか どんより ; ;

自分はなんにも変わりがないのに窓の外の景色で気分が変わっちゃうことも時にはあり

ますよね

というように、変わることもあるのですから、変えることだってできるわけです。

どかぁ～ん と落ち込んでいる奴隷の気持ちを引き上げてあげるためにはきちんと原因を

把握してしっかりと対処してあげなければならないことはもちろんなのですが、してあげ

ることはそれだけではないのです。

ご主人様たるもの窓の外の天気を変えられるくらいじゃなきゃいけません。

「俺はドラえもんじゃない！」 あぁ 失礼しました ^^ ;

でも、そんな風に奴隷の気分を変えてあげることができればいいですよ。

いくらご主人様といえども泣き崩れている奴隷に「笑いなさい」と命令してもそれは無理なことでしょう。

「泣かせるのは得意なんだけどなあ・・・」

う～ん それは良くわかります（笑）

ただ、奴隷が落ち込んでしまうのはそのすべてに本質的な原因がある時ばかりではありません。

時には理由がなんにもないのに何かに引き込まれてしまうようなことだってあるのです。

理論や理屈で納得させることが必要な時もありますが、ご主人様としての大きな心で接してあげることで土砂降りの雨をいいお天気に変えることだってできるのです。

ここで覚えておいていただきたいことは、力業で心を振り回さないということです。

気持ちが落ち込んでいるのは窓の外が雨だからとは限りません。

でも、窓の外をお天気にしてあげることで落ち着いて考えられる余裕が出せるようにして

あげることだってできるのです。

無理は禁物、そのくらいのことはわかっておられるでしょうけど・・・

ご主人様のお天気がクルクル変わってしまうようではいけませんよ ^^ ;

ただし、一言ご忠告しておきますが・・・

カーテンを閉めてると窓の外は見えませんから開けとくように黙っておいてくださいね。

窓を開けてちょっと空気の入れ換えをしてみませんか。

知らず知らずのうちに部屋の中の空気がよどんでいることに気がつかないこともあるのです。

自分では気がつかないうちに何かが変わっていつていることだってあるのです。

自分が？ お相手が？ それとも周りが？

いえ、部屋の中の空気がです。

いつも見慣れた部屋、そしていつも見慣れた窓の外の景色。

何も変わっていないように見えますが、見慣れているからこそ気がつかなくなってしまうことだってあるのです。

ほんのちょっとした変化、ほんのちょっとだけがほんのちょっとでなくなる前に窓を開けて空気を入れ換えないとはいけません。

「いつも換気扇つけっぱなしだから大丈夫～！」 おっと、それは失礼しました ^^；

すれ違い、聞き違い、勘違い、そんなことなら誰にでも気がつくでしょう。

でも、慣れてしまってそれが当たり前になってしまうと感じなければならぬ事を感じられなくなってしまうのも事実なのです。

奴隷でいるのではなく奴隷でいられるということ。

それは奴隷でいられるかどうかへの不安ではなく、奴隷であることが当たり前のことになってしまわないようにということです。

窓の外がたとえ台風であっても大雪が降っていてもご主人様というお部屋の中に守られて
いるからこそ安心していられるんだということを忘れてしまってはいけません。

忘れてしまわないうちに窓をちょっとだけ開けて心の換気をしてください (^ ^)

ただし、一言ご忠告しておきますが・・・

窓を開けたまま寝ると風邪をひきますからちゃんと閉めなきゃいけませんよ。

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

落ちる、壊れる、爆発する。

何がどう違うのかはわかる人にはわかると思うのですが、表現の違いではなくそれぞれに微妙な違いがあるものの、それらはM女性の持つ特質のひとつであるということです。

ゆっくりとだったり、突然にだったり。

理由があったりなかったり、キッカケがあったりなかったり。

自己嫌悪、自己否定、自虐本能、自己防衛。

そんな繰り返しは嫌だと思っても自分でなんとかできるくらいなら苦しむわけなどありませんよね。

とはいうものの奴隷になれたからといって、落ちなくなったり壊れなくなったり爆発しなくなったりするというものではありません。

ご主人様がいらっしゃるというだけでは、どうにかなるものではないということなのです。 いえ、ご主人様の奴隷にさせていただいたからこそ起こることだって少なくはないのです。

ご主人様の方から見ると、奴隷をしっかりと支配していくためにはこれらをどうして

いくのかがご主人様の役目であり、これらにどう対処できるのかが飼い主である

ご主人様としての資質の問われるところなのです。

落ちるのが悪いことでもなければいけないことでもなく、ご主人様が見守っているからこそ落ちてもいいのだと教えることができるというのはそうそう簡単なことではないのですから。

「落ちるなら勝手に落ちてなさい」とか「うるさいから自分で何とかしなさい」という方はこの先をお読みになる必要はありません。

また、「そのくらいのことは百も承知だし、ちゃんと対処してあげる自信もあります」という方もこの先をお読みになる必要はありません。

浜辺に打ちよせる波はいつも同じではありません。

やさしい波もあれば荒れ狂うように押しよせる波もあります。

でも、まったく波のない日はありませんよね。

波があるのは生きている証拠なのです。

だから波のあるのはごく自然なこと。

波が穏やかでなくなることは悪いことでもいけないことでもありません。

たとえ大きな波が押し寄せたとしても、かならずご主人様が穏やかな波に戻してくれるのです。

いつものすてきな笑顔でいられるように (^ ^)

ただし、そうしてあげるためにはご主人様に波を打ち消すだけの力がなければなりません。

間違わないでいただきたいのは、ちょっと波があるからといってなんでもかんでも静めてしまうのではないということです。

波の大きさや波の質をしっかりと見極めなければなりません。

その波がどのくらいの大きさになったら穏やかな波に戻してあげるかを判断する必要もあります。

すぐに戻してもいいこともあれば、少しだけそのままにしておくことが必要なことだってあります。

時には大波を全身で受け止める防波堤にならなければならないこともあるでしょう。

どんなに大きな波がきても穏やかな波に戻してあげることができるということが、ご主人様への信頼をより大きくするために必要なことなのです。

そして、「波はあってもいいのだ」ということを、奴隷に教えてあげることができるご主人様になっていただきたいのです。

波があるのは生きている証拠です。

大きくても小さくても波はあってもいいのです。

たとえ大きな波が押しよせたとしてもご主人様がいるから大丈夫。

そんなご主人様をめざしていただきたいと思います。

ご主人様なのでから大きな波に呑み込まれて溺れたりしないようにちゃんと泳げるように訓練しておかなければなりません。

え 任せておけって？

あの・・・ それ、奴隷さん用の浮き輪なんですけど ^ ^;

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「壁の向こう側」

§ 5 扉

あなたは後ろを振り返ったことがありますか？

転んだり、穴に落ちこちたり、なつかしいあれこれが見えませんか？

もちろん主従関係でのことですが ^^ ；

今となっては・・・ですが、あの時はど～なることかと思ったなんてこともありますよね。

その時には、よくわからなかったことや、できなかったこと。

いま振り返ってみると、いつのまにかわかるようになっていたり、いつのまにかできるようになっていたり。

そんなことがいっぱいあるといいですよね (^ ^)

ところで、この 「いつのまにか・・・」 というのがとても大切なことだったりするんです。

いい奴隷になりたい。

そりゃ誰だってそうでしょうけど ^^ ；

「いい奴隷」ってどんな奴隷かというのは人それぞれというよりも、ご主人様が違えば当然違うということで、ここではちょっと置いといて・・・

ご主人様に気に入ってもらいたい、ご主人様に喜んでもらえるような

奴隷になりたい。

その気持ちはとってもよくわかります。

でも、どんなふうにしたらいいのか、どんなふうになったらいいのかがわからずに焦っている人、手を挙げてください。

はぁ～い いっぱいいますね～（縛）

ここでひとつ気をつけなければならないことがあるんです。

こうしたい、こうなりたいという気持ちが 「しなければいけない、ならなければいけない」 になってしまっただけではないのです。

気持ちの上では 「しなければいけない」 ではなく 「そうなれたらいいなあ」 くらいがいいということなのです。

ご主人様の仰ることがいまはわからなくても、「いつのまにか」 わかるようになり、そして、「いつのまにか」 自然にそれが身に付くようになっていけることを信じて。

あなたは後ろを振り返ったことがありますか？

きっと、一年中春の日射しがポカポカと (*^^*)

え？ 台風に洪水、火山の爆発でエマージェンシーとレスキューの連続だったですか ^^;

あの時は、こうしなさい、こうなりなさいと教えたけど、それをすべて理解させたり納得させたりすることってなかなかできませんよね。

まァ いつかはわかる時がくる、いつかはできるときがくる、それがわかっているからこそ待つことができるんですけど。

たいへんでしょうけど、それでこそのご主人様ですもんね。

ところで、この「いつかは・・・」というのがとても大切なことだったりするんです。

いい奴隷に育てたい。

そりゃ誰だってそうでしょうけど ^^ ;

(ただし支配と服従を目指すご主人様限定ですが(縛))

いい奴隷というのは、もちろんご主人様によって考え方も育て方も違って当たり前なのですが、自分にとってだけではなく、奴隷自身がいい女いい人間になるための根元であるということなのです。

そこのところわかってますよね。

わかってる人、手を挙げてください。

はぁ~い いっぱいいますね~(縛)

ここでひとつ気をつけなければならないことがあるんです。

その時その時で適切に導いていくのは当然のこと。

でも、これからのこと、もっと先のこと、いまは無理でも、いつかはわかるようになり、そしていつかは自然に受け入れられるようになるための教えもあるのです。

そのために必要なこと。

がんばらせてはいけないこと。

余裕を無くさせてはいけないこと。

こうしなさい、こうならなければいけませんではなく、「いつかは」 そうなれるんだと信じさせてあげること、それを忘れずに想い続けていかせること。

でも、突然にポンッてできるわけではありません。

いつもの躰、教え、調教、いえいえご主人様の全部で接していく積み重ねがあってこそのことなのです。

高い目標に向かって必死にがんばっていくのがいけないとはいいいません。

でも、それじゃいままでと同じじゃありませんか？

挫折感を味わったり、達成しても充実感が湧いてこなかったり・・・

ご主人様の前で、必死に頑張る必要はないんです。

ご主人様がおっしゃるように 「いつかは」 そうなれると信じていれば、「いつのまにか」 そうなれるということなのです。

そんなふうになれるのだろうかと思っても、ご主人様がそうなるんだというのですから、いつかはそうなるんです（笑）

いつかご主人様に「ほら、後ろを振り返ってみなさい」といわれた時に、「あれ、いつのまにか・・・」 ということなのです。

たまには、後ろを振り返ってみるのもいいもんだと思いませんか？

自分のすべてを捧げたいと思ったご主人様にお仕えすることができたのですから、前がどっちかを見失ってはいけません。

自分のすべてで支配したいと思った奴隷を飼うことができたのですから、前がどっちかをしっかりと導いてあげなければいけません。

たとえ身体が朽ち果てても続く主従関係を、あなたにもきっと築き上げることができるはずです。

主従の扉を開いたのはあなた自身なのです。

その扉の先には近道も抜け道也没有せん。

焦らずにゆっくりと進んでいくことにしましょうか (^ ^)

閉じちゃったらどうでしょう (涙) って？

大丈夫です！ 自動ドアになってますから (^ ^)

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「道 標」

本講座は主従関係のあれこれを道端の小石のような感覚で捉えていきます。

本講座の前に各S M公開講座を受講されるようお勧めします。

なお、S Mプレイを中心とした直接的な行為について言及することはありません。

なのであらかじめご了解くださるようお願いいたします。

§ 1 ポジション

§ 2 お見送り

§ 3 お詫び

§ 4 1 mm

§ 5 引き出し

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

S M公開講座 「道 標」

§ 1 ポジション

私は左側が好きです。

なんといっても左側です。

って、なにをいってるんだかわかりませんよね ^^;

ただ左側を歩くのが好きなだけなんですけど。

並んで歩く時には（笑）

ふたりで一緒に歩いたり、お店で並んで座ったり、そんな時どっち側が好きとか

ってありませんか？

奴隷のポジション

ご主人様と一緒に歩く時、どちら側を歩けばいいか気にしたことってありませんか？

そんなことは一向に気にしないご主人様もいれば、奴隷が横に並んで歩くなど

もってのほか！な ご主人様もいらっしゃるでしょうけど。

はっきりとどちら側とご命令を受けていないと、なんとなく自然にという感じになり

ますよね。

ご命令がなければどちら側でもかまわない。

それで叱られたわけではないのだから。

確かに間違っていないかもしれませんが

でも、それでいいんでしょうか。

ご主人様はどちら側がお好きなのか、それを感じ取る、それをお聞きする、

それに従う。

ほ～ら、奴隷のすべきことになっちゃうわけです。

奴隷のポジション。

「なんとなく」ではなく、どちら側にいけばいいのかを気遣う気持ち。

それは奴隷としての心遣いなのです。

たかがどちら側なのではなく、どちら側にいけばいいのかということに気がつくこと、

それを教えていただくこと、それを守ること。

どちら側なのかということそのものに気がつくようとしなければ気にしようがありません。

せんが、ご主人様に対して奴隷が常にどうしたらいいのか、どうするべきなのか

という意識を持って接することが大切だとは思いませんか？

これは問題意識を持つというより、奴隷としての心遣いということなのです。

どんな時であってもご主人様に喜んでいただきたい、その気持ちが心遣いとして現れる。

そんな奴隷ってステキだと思いませんか？

ご主人様のポジション

どちら側にするのもさせるのもご主人様の自由。

それに拘らずその時の気分というのももちろん構いません。

主導権は当然ご主人様にあるのですから（あたり前すぎますけど ^^; ）

ただし、奴隷がどちら側にしていいいかわからずにウロウロしてしまうようでは

困りますよね。

決めてあげた方が迷うことなく従うことができることもある、とは思いませんか？

「どっちでも構わん」も命令であることに変わりはありません。

ただし、奴隷の心遣いに気がつかずにぼ~っとしちゃいけませんよね。

間違ってもご主人様が迷ってウロウロしないように。

「なんだ、どちら側かなんてそんなにたいしたことじゃないだろ」、「そんなことに拘らなくたっていいじゃないか」 と思われる方ももちろんいらっしゃると思います。

でも、あくまでもこれはほんの一例。

ご主人様がポジションを決めればそこが奴隷のポジションになるということなのです。

歩き時であろうと座る時であろうと、側にいる時であろうと側にいない時であろうと、どんな場所どんな時間でも。

たかが「どちら側」、されど「どちら側」。

ちなみに私は左側です。

でも、「どっちでも構わん」という時もけっこうあつたりしますけど（笑）

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

SM公開講座 「道 標」

§ 2 お見送り

歩きながら振り返るとそこにはお見送りする奴隷がいる。

歩いていきながら何度か立ち止まって後ろを振り向き手を振る。

そこにはにっこり笑顔の奴隷の姿が...

私の好きな時間のひとつです (*^^*)

ここで一言 寂しそうな顔ではなくあくまでもにっこり笑顔限定です。

もちろん、作り笑顔はダメです (笑)

ご主人様がお帰りになる時は奴隷はお見送り。

当たり前というまでもないことですが、じゃあね～ バイバイ♪ってわけには

いきませんよね ^^;

ご主人様をきちんとお見送りするのは奴隷として当然のことですから。

とはいうものの、お見送りの時が辛いというM女さんが多いのも事実です。

もっと一緒にいたい、寂しい、離れたくない、、お持ち帰りして欲しい (縛)

そればかり考えてるとぜったいにっこり笑顔にはなれません。

■いってまいります

さて、奴隷の居場所というのはご主人様の中なのであって、けして奴隷の中に
ご主人様がいないのではありません。

ご主人様にとっては、奴隷の悦びも辛さもあれこれ全部ひっくるめて自分の
一部でなければならないのです。

なぜかというと、奴隷のすべてを我が事として感じられなきゃ、ということだから
なのです。

ということで、ご主人様は奴隷にとって「自分の本当の居場所」であり「自分の
帰る場所」でありますからして、奴隷にとってご主人様と離れている時間という
のは、しばしお出かけしてるということになるわけです。

お見送りの時に「気を付けてお帰りくださいませ (*^^*)」ではあるのですが、
ご主人様の元からしばしお出かけなのですから、「いってらっしゃいませ」では
なく、ほんとは「いってまいります」なのです。

また戻るまでの間、ご主人様の奴隷として恥ずかしくないように、ご主人様に
所有していただいている自分を大切に、ご主人様の奴隷としての誇りを持つ

て過ごしていかなければならないのです。

その気持ちを込めたご挨拶、それがお見送りなのです。

ちなみに私は見送らせるのが好きです。

でも、見送るのも好きだったりしますけど（笑）

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp

SM公開講座 「道 標」

§ 3 お詫び

こんなことを言ったら叱られる、こんなことをしたら怒られる・・・

まあ 言い出しにくいということはあるでしょうが、言えないというのは

奴隷としてはあってはならないことですよね。

そういう時って、こんなことを言ったら嫌われる、そんなことをしたら捨てられる

ではありませんか？

でも、叱られないようにしよう怒られないようにしようなんて思うのは100万年早い

のであります (笑)

だって、叱っていただくということは躡けていただくということですから。

叱られるのではなく、叱っていただけるのです。

ご主人様の奴隷だから、奴隷として叱ってもらえるのです。

叱っていただける身分であるということをお忘れなく。

わかっちゃいるけどやめられない だってお仕置きだいすきだも〜ん (それはちょっと違う (笑))

奴隷を躡けるには、言って聞かせること身体に覚え込ませることは当然のことですが

だめなことはきちんと叱るということも必要です。

ただ、叱るということと怒りをぶつけるのは違いますよね。

あくまでも躡けるため教えるために叱るのですから、

「あ、おまえ〇〇したろ お仕置きだな♪」というのとは別梱包でお願いします (笑)

叱られるよなことは黙っている、こんなことでは身は捧げてても心は捧げてないんじゃないでしょうか。

捧げろではなく捧げられるように躡けることが大事なことと思います。

奴隷なんだから叱られるのは当たり前、というより叱ってもらえるのが奴隷。

叱っていただくことは躡けていただくことですから、叱っていただいたときのお詫びは感謝の気持ちになるのです。

「申し訳ございません ; ; 」 は 「ありがとうございます ^^ 」 ということです。

ちなみに私はそんなに叱ることはありません。

でも、説教するのは大好きです (笑)

KARMA

<http://www2r.biglobe.ne.jp/~karma/prison/>

karma@mvc.biglobe.ne.jp